

# センター試験（英語）の傾向

## 出題内容

センター試験『英語』の出題範囲は、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」及び「英語表現Ⅰ」である。おおよそ高校 2 年生までの学習内容である。学習指導要領に沿った問題が出題される傾向にあり、日頃の授業を大切に、基礎力を養っていれば、十分に対応できる。

2016 年度と 2017 年度の本試では、形式等の大きな変更はなかったが、2017 年度を詳細に見ていくと、これまでよりも実用的な表現が用いられており、作成部会の実用英語への意気込みを垣間見れる。例えば、第 2 問 C において、本試では You're watching cricket again?, 追試では OK, so you've decided to tour Europe rather than the US? と、それぞれ肯定文の語順で疑問文として機能する表現が用いられている。このような表現は、語尾を揚げ調子にすれば疑問文の機能を果たし、会話では頻繁に用いられる。中学生であっても、I beg your pardon? などを知っていることから、こうした表現を入試問題でこれまで見なかったことの方が不思議である。さらに、2017 年度（追試）第 6 問 A 問 2 において、正解の選択肢② They fed people in need and gave them a place to live. は、live の後ろの前置詞 in が省略された（副詞的に用いられた）表現であり、未だに文法的に誤りであると主張する者がいる中、勇気ある出題である。この用法に関しては、小西友七（1981）が『アメリカ英語の語法』（研究社）の中でも指摘しているように、古くから用いられており、現代英語においても定着された表現であることは言うまでもない。

『Kei-Net』（河合塾）のデータを参考に作成

2015年度	分野	配点	マーク数	語数	2016年度	分野	配点	マーク数	語数	2017年度	分野	配点	マーク数	語数
第1問	A 発音	6	3	12	第1問	A 発音	6	3	12	第1問	A 発音	6	3	12
	B アクセント	8	4	16		B アクセント	8	4	16		B アクセント	8	4	16
第2問	A 文法・語法	20	10	223	第2問	A 文法・語法	20	10	209	第2問	A 文法・語法	20	10	182
	B 語句整序	12	6	75		B 語句整序	12	6	86		B 語句整序	12	6	80
	C 応答文完成	12	3	182		C 応答文完成	12	3	184		C 応答文完成	12	3	206
第3問	A 対話文完成	8	2	142	第3問	A 対話文完成	8	2	148	第3問	A 対話文完成	8	2	167
	B 不要文選択	15	3	376		B 不要文選択	15	3	363		B 不要文選択	15	3	370
	C 意見要約	18	3	641		C 意見要約	18	3	620		C 意見要約	18	3	553
第4問	A 図表(図・グラフ)	20	4	641	第4問	A 図表(図・グラフ)	20	4	682	第4問	A 図表(図・グラフ)	20	4	722
	B 図表(広告)	15	3	369		B 図表(広告)	15	3	333		B 図表(広告)	15	3	374
第5問	長文読解(メール・手紙文)	30	5	854	第5問	長文読解(物語文)	30	5	877	第5問	長文読解(物語文)	30	5	832
第6問	長文読解(論説文)	36	9	854	第6問	長文読解(論説文)	36	9	758	第6問	長文読解(論説文)	36	9	821

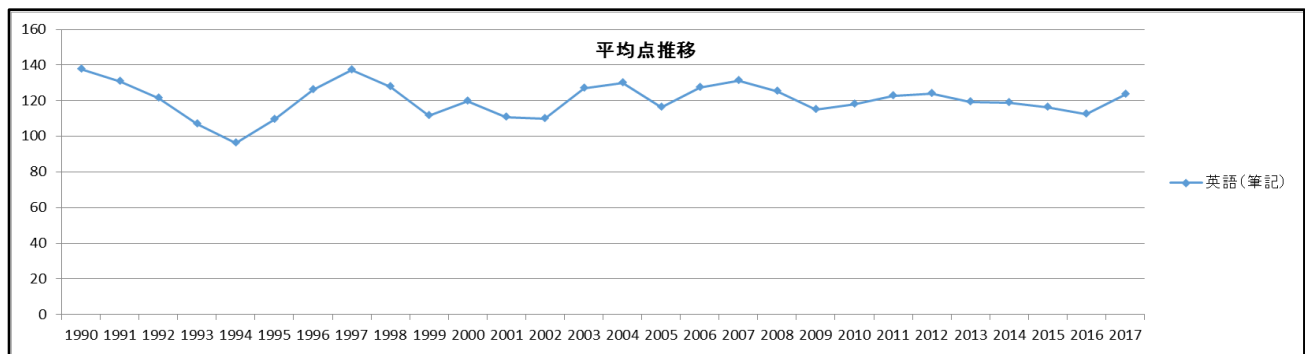
多くのセンター試験の参考書などでは、2017 年度は 2016 年度と比べて変更がなかったとしているが、2017 年度追試を見ると、これまで第 5 問あるいは第 6 問で出題されていた類推問題が消えていたりするなど、多少の変化の兆しがあるので注意が必要である。詳細については後述する。

## 平均点の推移

センター試験が実施されてから今年度までの平均点（本試）の推移は以下の通りである。

センター試験本試平均点推移（1990 年度～2017 年度）※センター試験の筆記は 200 点満点、リスニングは 50 点満点

年度	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
英語(筆記)	137.62	130.96	121.32	106.72	96.42	109.52	126.14	137.42	127.74	111.44	119.62
年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
英語(筆記)	110.7	109.68	126.82	130.1	116.18	127.52	131.08	125.26	115.02	118.14	122.78
英語(リスニング)						36.25	32.47	29.45	24.03	29.39	25.17
年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017					
英語(筆記)	124.14	119.15	118.87	116.17	112.43	123.73					
英語(リスニング)	24.55	31.45	33.16	35.39	30.81	28.11					



これまで行われてきた 1990 年度から 2017 年度までの本試（筆記）の平均点は 120.45 点である。およそ 6 割であり、難易度は平均的であると言える。一般的に、旧帝大や国公立大学医学部は 9 割，地方国公立大学は 7 割から 8 割程度が合格に必要な得点とされている。平均点が 6 割であるのと比べると，難問も取りこぼしなく正解しなければ合格点に到達できないという印象を与えるかもしれないが，実はそうではない。合格点に到達するための方法を次から見ていくことにする。

## 正解率

次に示すのは，2013 年度から 2017 年度までの筆記試験（本試）における設問別正解率である。

『大学入試センター試験徹底分析』（Benesse）を参考に作成

	2013				2014				2015				2016				2017		
	設問番号	配点	正解率 %		設問番号	配点	正解率 %		設問番号	配点	正解率 %		設問番号	配点	正解率 %		設問番号	配点	正解率 %
第1問	1	2	73.1	第1問	1	2	66.1	第1問	1	2	88.2	第1問	1	2	81.2	第1問	1	2	66.3
	2	2	88.3		2	2	62.0		2	2	56.4		2	2	76.4		2	2	69.5
	3	2	75.8		3	2	40.6		3	2	93.6		3	2	81.7		3	2	71.8
	4	2	74.0		4	2	79.6		4	2	81.6		4	2	54.7		4	2	58.6
	5	2	52.2		5	2	78.2		5	2	60.2		5	2	73.2		5	2	76.4
	6	2	60.4		6	2	73.2		6	2	41.5		6	2	58.9		6	2	78.6
	7	2	64.6		7	2	58.9		7	2	76.5		7	2	82.8		7	2	57.0
第2問	8	2	73.7	第2問	8	2	80.9	第2問	8	2	37.8	第2問	8	2	81.0	第2問	8	2	54.5
	9	2	70.0		9	2	81.1		9	2	61.5		9	2	61.0		9	2	52.4
	10	2	68.9		10	2	68.5		10	2	58.2		10	2	46.0		10	2	81.0
	11	2	76.2		11	2	52.9		11	2	41.2		11	2	44.8		11	2	68.0
	12	2	62.0		12	2	77.6		12	2	74.4		12	2	64.1		12	2	61.0
	13	2	71.3		13	2	94.8		13	2	56.2		13	2	48.4		13	2	76.6
	14	2	85.4		14	2	41.7		14	2	18.0		14	2	17.2		14	2	71.5
	15	2	73.7		15	2	52.9		15	2	46.7		15	2	50.8		15	2	43.2
	16	2	74.6		16	2	42.4		16	2	73.6		16	2	46.0		16	2	79.9
	17	2	58.0		17	2	51.9		17	2	54.0		17	2	59.8		17	2	75.9
	18	3	70.8		18	4	70.0		18	4	91.6		18	4	69.0		18	4	86.5
	19	3	81.2		19	4	83.3		19	4	49.5(48.1)		19	4	72.1(63.1)		19	4	81.3(77.0)
	20	3	82.3		20	4	85.5		20	4	93.1		20	4	42.0		20	4	90.8
	21	4	70.3		21	4	90.7		21	4	61.2(60.4)		21	4	71.9(35.9)		21	4	82.3(79.2)
第3問	22	4	82.7(65.7)		22	4	84.1(79.7)		22	4	76.4		22	4	46.2		22	4	48.8
	23	4	72.4		23	4	65.5		23	4	73.9(69.1)		23	4	42.6(33.0)		23	4	69.2(38.5)
	24	4	41.2(39.0)		24	4	50(48.4)		24	4	47.3		24	4	59.3		24	4	61.1
	25	4	61.7		25	4	51.6		25	4	46.6		25	4	56.4		25	4	45.7
	26	4	82.6(60.0)		26	4	61.7(49.4)		26	4	23.7		26	4	42.5		26	4	56.5
	27	5	57.9		27	4	80.6		27	4	71.6		27	4	82.6		27	4	75.4
	28	5	69.5		28	4	62.6		28	4	85.4		28	4	73.8		28	4	90.6
	29	6	88.4		29	5	83.6		29	5	61.1		29	5	49.0		29	5	87.8
	30	6	72.3		30	5	67.0		30	5	72.6		30	5	63.2		30	5	74.4
	31	6	82.3		31	5	80.4		31	5	49.3		31	5	40.7		31	5	73.7
第4問	32	6	65.1	第4問	32	6	79.9	第4問	32	6	31.0	第4問	32	6	68.2	第4問	32	6	76.8
	33	6	67.4		33	6	66.3		33	6	66.2		33	6	44.2		33	6	81.4
	34	6	58.7		34	6	63.3		34	6	58.8		34	6	30.1		34	6	44.6
	35	6	91.0		35	5	63.4		35	5	74.2		35	5	65.8		35	5	69.9
	36	6	60.9		36	5	75.1		36	5	65.2		36	5	51.5		36	5	72.9
	37	6	55.8		37	5	56.2		37	5	73.4		37	5	59.9		37	5	58.4
	38	5	67.5		38	5	19.9		38	5	70.5		38	5	70.7		38	5	55.8
	39	5	69.4		39	5	33.6		39	5	86.1		39	5	58.8		39	5	66.8
第5問	40	5	68.5	第5問	40	5	56.3	第5問	40	5	81.8	第5問	40	5	79.5	第5問	40	5	81.1
	41	6	64.6		41	5	73.5		41	5	76.0		41	5	70.9		41	5	64.8
	42	6	75.8		42	6	72.3		42	6	72.2		42	6	74.4		42	6	61.0
	43	6	79.7		43	6	80.4		43	6	72.3		43	6	84.3		43	6	64.7
	44	6	54.7		44	6	71.3		44	6	74.8		44	6	65.6		44	6	68.7
	45	6	58.0		45	6	52.4		45	6	77.5		45	6	85.5		45	6	72.3
第6問	46	6	57.7	第6問	46	6	50.3	第6問	46	6	83.1	第6問	46	6	62.7	第6問	46	6	69.6
	47	6	53.4		47	6	86.8		47	6	73.0		47	6	72.6		47	6	54.3
	48	6	39.3		48	6	69.6		48	6	47.1		48	6	44.1		48	6	68.5
	49	6	55.6		49	6	72.8		49	6	57.8		49	6	73.3		49	6	57.9
	50	6	69.4		50	6	45.7		50	6	44.1		50	6	68.6		50	6	49.3
	51	6	44.4		51	6	62.7		51	6	63.3		51	6	66.3		51	6	54.9
	52	6	57.3		52	6	83.7		52	6	81.4		52	6	80.5		52	6	71.1
	53	6	54.3		53	6	83.0		53	6	52.9		53	6	62.5		53	6	72.6
	54	6	38.0		54	6	53.8		54	6	54.8		54	6	68.4		54	6	67.4
	55	6	54.5(23.4)		55	6	58.3(49.8)		55	6	72.3(48.5)		55	6	79.8(56.8)		55	6	86.0(60.9)

※( )内の数字は，完答の正答率を表す

問題の難易度を把握する上で参考にすべき資料である。センター試験の過去問題を解いた際、できなかった問題が基本問題か応用問題かを把握すれば、自分の現状の実力がわかるであろう。ところで、国公立大学を目指している生徒は、他の受験生が解けている問題はもちろん、解けなかった問題、つまり正解率が低かった応用問題もできなければならないという思い込みがあるかもしれないが、実はそうではない。正解率が低い問題よりも、高い問題を確実に解いていくことの方が大切である。例えば、正解率 60%以上の問題を解くだけで平均点以上、50%以上の問題が解ければ高得点が保証される。

『大学入試センター試験徹底分析』(Benesse)及びセンター試験による公表された資料を参考に作成

年 度	2011		2012		2013		2014		2015		2016		2017	
	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合
正答率60%以上を得点したと仮定	138	69%	140	70%	132	66%	134	67%	125	63%	124	62%	138	69%
正答率50%以上を得点したと仮定	166	83%	176	88%	184	92%	178	89%	151	76%	150	75%	178	89%
全国平均点	122.8	61%	124.1	62%	119.2	60%	118.9	59%	116.2	58%	112	56%	123.7	62%

上記の表から、難問が解けなければならないというのではなく、正解率が高い問題を丁寧に、確実に解けるようになることが目標点に到達する秘訣と言える。やはり、基本をおろそかにせず、日々の学習を通して基礎力を身に付ければ、十分にセンターに対応できることが証明されている。

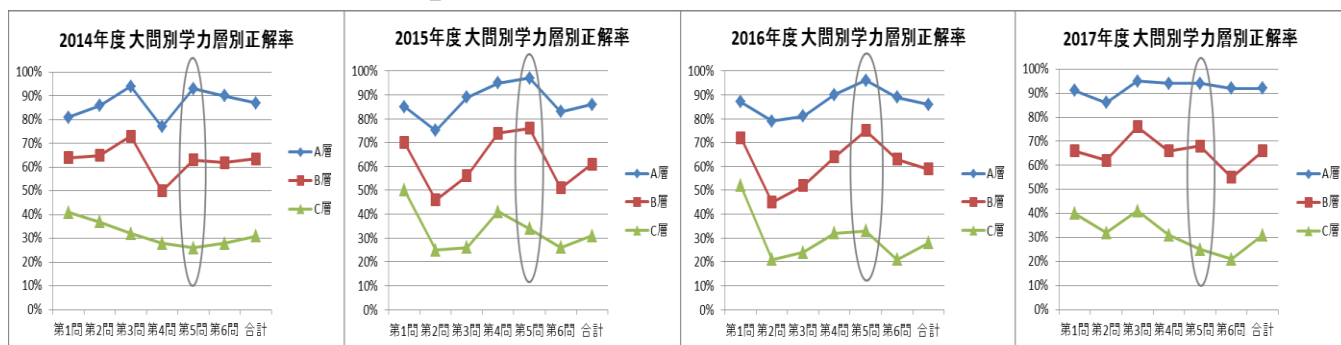
では、英語を苦手とする生徒と、英語を得意とする生徒との間の差は、センター試験では、どのような違いとなって現れるのかを見ていきたい。次に示すのは、大問別の正解率である。

『大学入試センター試験徹底分析』(Benesse)を参考に作成

2012				2013				2014				2015				2016				2017			
大問	配点	平均点	正解率	大問	配点	平均点	正解率	大問	配点	平均点	正解率	大問	配点	平均点	正解率	大問	配点	平均点	正解率	大問	配点	平均点	正解率
1	14	9.3	66%	1	14	9.8	70%	1	14	9.2	66%	1	14	10.0	71%	1	14	10.2	73%	1	14	9.6	69%
2	41	26.7	65%	2	41	27.9	68%	2	44	29.6	67%	2	44	22.2	50%	2	44	22.0	50%	2	44	27.6	63%
3	46	31.4	68%	3	46	32.4	70%	3	41	29.8	73%	3	41	24.8	60%	3	41	22.4	55%	3	41	30.6	75%
4	33	22.8	69%	4	33	22.7	69%	4	35	18.9	54%	4	35	26.4	75%	4	35	22.9	65%	4	35	23.5	67%
5	30	22.6	75%	5	30	19.8	66%	5	30	19.6	65%	5	30	22.8	76%	5	30	22.3	74%	5	30	20.2	67%
6	36	20.1	56%	6	36	17.9	50%	6	36	23.2	64%	6	36	20.0	56%	6	36	22.9	64%	6	36	20.7	58%
全体	200	124.1	62%	全体	200	119.2	60%	全体	200	118.9	59%	全体	200	116.2	58%	全体	200	112.4	56%	全体	200	123.7	62%

1 問に対する配点は、第 4 問、第 5 問、第 6 問が高く、ここでどれだけ間違いをせず、確実に問題を解けるかが合計点を左右すると言っても過言ではない。大問別正解率を見ると、それほど大問ごとの正解率に差がないように思われるが、受験生の学力層によって差が出る大問が存在することに注意したい。

『大学入試センター試験徹底分析』(Benesse)を参考に作成



A 層：偏差値 60 以上

B 層：偏差値 40 以上～60 未満

C 層：偏差値 40 未満

特に受験生の学力層によって差が付きやすいのが第5問である。A層やB層が第5問で正解率を維持、あるいは上げていくのに対し、C層はそうではなく、時に下げる傾向にあることがわかる。他の大問と異なり、第5問からは長文読解問題となり、1つの小問を解くために読まなければならない語数が増える。これがC層の正解率低下の主な理由と考えられる。特に2016年度（厳密に言えば2015年度の追試）から、第5問は物語が出題されている。多読などの学習法を通して、語数の多い英文を読むことに日頃から慣れておくことが正解率を上げるカギとなろう。

## 語数

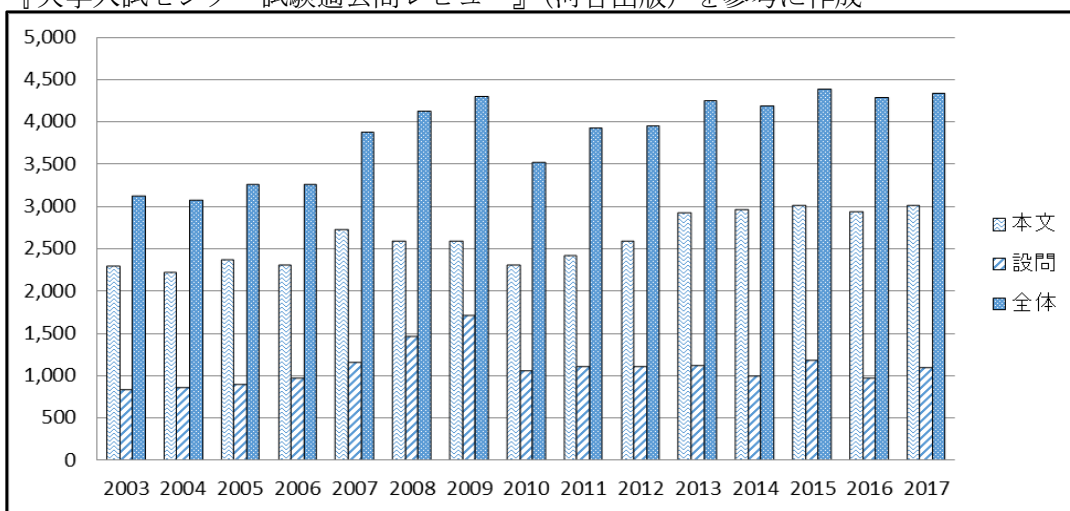
センター試験が始まって以来、総語数は増える傾向にある。これは、今後ますます情報化する社会において、ある程度の量の情報を、決められた時間内に正確に処理する能力が求められていることの反映であろう。センター試験の筆記（本試）における、近年の語数変化を見ていくことにする。

『大学入試センター試験過去問レビュー』（河合出版）を参考に作成

年度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
本文	2,290	2,212	2,368	2,306	2,720	2,590	2,583	2,296	2,414	2,588	2,917	2,960	3,006	2,939	3,002
設問	825	852	890	956	1,151	1,453	1,704	1,047	1,095	1,094	1,110	985	1,166	954	1,078
全体	3,115	3,064	3,258	3,262	3,871	4,130	4,294	3,520	3,923	3,956	4,251	4,187	4,385	4,288	4,335

※年度以外、数字は語数を表す

『大学入試センター試験過去問レビュー』（河合出版）を参考に作成



10年前と比べ、近年の語数は1,000語程度増加していることがわかる。また、設問の語数も増加傾向にあり、設問を読む際にも、ある程度の速さで必要な情報を正確に得る力が必要とされる。

2016年度（2015年度追試）では、第5問で物語が出題されたことを先に言及した。2007年度まで第6問で物語が出題されており、その物語文の平均語数は1,000前後であったことを考えると、来年度も引き続き第5問で物語文が出題されると前提した場合、語数が増えることが予想される。センター試験は、新しい問題を出題した際、その年度の問題は比較的簡単にするが、その問題が定着すると、難易度を上げてくる傾向にある。市販されているセンター試験対策問題集等は、おそらく2015年度追試から2017年度本試の問題を基に作問されると思われる。よって、語数はそれほど変わらないものとなるであろう。次年度以降、第5問の物語文における語数の増加を予想し、語数の多い物語文の読解力を身に付けたいならば、センター試験過去問題の2007年度までの第6問を解くのも1つである。

『Kei-Net』（河合塾）のデータを参考に作成

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
第1問	132	169	140	164	136	31	28	31	28	28	28	28	28
第2問	348	359	425	424	525	469	390	476	525	511	480	479	468
第3問	615	668	975	1,202	1,149	905	943	1,014	1,190	1,012	1,159	1,131	1,090
第4問	588	533	670	787	663	708	725	860	846	898	1,010	1,015	1,096
第5問	524	523	657	435	639	542	787	832	821	845	854	877	832
第6問	1,053	1,010	1,004	1,118	1,182	865	891	833	841	893	854	758	821

※年度以外、数字は語数を表す

※第1問において、2010年度から語数が減った理由は、2009年度までは文中における単語の強勢の位置が出題されていたが、2010年度からは単語のみの強勢の位置が出題されるようになったからである

第6問に関して語数の減少傾向にあることがわかる。来年度では、第5問と第6問を入れ替え、物語文を2007年度まで行われてきたように第6問に置き、語数を1,000語程度にして第6問の語数を増加することも考えられる。大問等の入れ替えは、センター試験ではしばしば行われることで、例えば2014年度本試では第2問Bで出題された問題が、2015年度では第3問Aで出題されたことが記憶に新しい。大問は、語から文、文から段落へと、語数を徐々に増やして配列されることから、語数の一番多いものを最後の大問にすることは、テスト理論においても妥当性があり、来年度にそのような配列になる可能性はある。

ここで注意したいのは、語数が増加すると、正解率が下がると思われがちであるが、実際はそうなるとは限らないということである。例えば、2013年度の第3問は、2012年度第3問と比べ、出題形式・配点は変わらず、語数のみ約180語増加という変化があったが、正解率は68%から70%へと上がっている（河合塾の設問分析では、語数が増加したため、難易度は“やや難”とあったが、実際は反対であった）。リスニング試験においても同様のことが言える。例えば、第3問Aについて、2009年度では平均165wpmであったのに対し、2010年度では平均195wpmと、読み上げ速度が急激に上がった問題があった。その差が約30wpmあったにもかかわらず（問15は、207wpmと最速）、正解率は86%と高かった（ちなみに第4問A問20は127wpmと最も遅かったが、正解率は79%）。このような例から、語数増加や読み上げ速度よりも、内容によって、正解率が変わる場合もあるということに注意したい。

## センター試験（英語）大問別の分析

### 第1問

第1問は設問1つに対し、配点が2点と低い。ただし、生徒たちのセンター試験の結果を長年にわたって見てみると、第1問の正解率と全体の正解率に相関関係があることが多い。これは、日頃から単語を覚える際、日本語訳だけでなく、発音・アクセントも一緒に覚える生徒は、丁寧に学習するという習慣を持ち、1点でも大切に得点していこうとする姿勢を持っているからであろう。積み上げられてきた日頃の学習の成果が出る大問とも言える。正しく読めない英単語は、綴りや意味が覚えられないのは当然である。漢字が読めなければ、その漢字が書けないのと同じである。日頃から電子辞書や携帯アプリなどを使って、発音を聞きながら音読をして英単語を覚える習慣を身に付けたい。目だけで覚えるのではなく、口で覚えることが大切である。また、発音・アクセントの規則を覚えるのも有効であろう。

第1問Aは発音の問題である。a (ancient, damage, calm など) や ou (doubt, though, rough など) のような母音、ch (chance, stomach, machine など) や s (loose, lose, sugar など) のような子



音は、読み方が複数あるので注意したい。次の表は 1992 年度から 2017 年度までの本試と追試において、  
発音問題として出題された英単語、計 537 個をリストにしたものである。まずは過去に出題された英単語から発音問題に取り組むのも良いだろう。

第 1 問 A 発音問題で出題された英単語（アルファベット順）

年度 区分	英単語	年度 区分	英単語	年度 区分	英単語	年度 区分	英単語	年度 区分	英単語	年度 区分	英単語	年度 区分	英単語
2007 本試	abroad	1992 本試	bush	2012 本試	decay	1992 本試	ghost	1995 追試	loose-leaf	2010 本試	proof	2008 本試	stomach
2009 本試	absorb	1994 追試	button	1993 本試	decorate	2007 本試	ghost	1995 追試	lose	2014 本試	prove	2017 追試	stood
2013 追試	absorb	1996 追試	calculating	2015 追試	defeat	2009 本試	ginger	1997 追試	lose	1994 追試	psychology	1993 追試	stranger
1994 追試	access	2010 追試	caif	2016 追試	designer	1993 追試	glove	2016 追試	lot	2012 追試	puppy	2013 追試	stranger
1994 追試	account	2012 追試	calm	1992 本試	dessert	2014 本試	glove	1998 本試	love	1994 本試	quiet	2009 本試	subtle
1994 追試	accuse	1996 追試	capable	2011 追試	determine	2011 本試	glow	2011 追試	luggage	1992 追試	rapid	2009 本試	subtle
2012 本試	accuse	1992 本試	capital	2008 追試	device	2016 追試	go	1996 本試	machine	2011 追試	rather	2013 本試	subtle
2015 追試	achieve	1992 追試	castle	2011 追試	digest	2007 本試	graphic	2010 追試	machine	1994 本試	raw	1994 追試	succeed
1994 本試	action	2013 本試	castle	1995 追試	disappointed	2010 追試	great	1996 追試	machine	1995 本試	reached	2008 追試	suffer
1997 追試	advice	2014 本試	casual	1995 追試	disappointed	1992 本試	grow	2015 追試	machinery	1998 本試	read	1995 追試	sure
2012 追試	advised	2008 本試	cease	2000 追試	discovery	2017 追試	growth	1992 本試	major	1998 本試	read	1999 追試	sure
1992 追試	adviser	2000 追試	celebration	1993 追試	discuss	1993 本試	guess	2011 本試	manage	1994 追試	readily	2016 本試	surrounded
1993 追試	agent	1992 追試	challenging	1997 追試	dish	2014 本試	habit	2013 追試	management	1998 本試	ready	2000 追試	swallow
1992 本試	allow	1996 本試	chance	1993 本試	distinguish	2009 追試	hallway	1992 追試	marvelous	2008 本試	reason	2017 本試	swear
2008 追試	allow	2017 本試	channel	1997 追試	doctor	2015 本試	handle	2015 追試	mathematics	2010 追試	receipt	2007 追試	sweat
1993 本試	although	2008 本試	character	1998 追試	don't	2015 本試	handsome	2010 本試	measure	1993 本試	recent	1995 本試	sweaty
2014 追試	although	2008 本試	cheer	2008 本試	double	1992 追試	haste	2000 本試	medicine	2011 追試	refine	2013 本試	symbol
2012 本試	amuse	2008 本試	chemical	1993 本試	doubt	1995 本試	Haunted	2013 本試	medium	2012 追試	regard	2013 追試	target
2015 本試	ancestor	1994 本試	chemistry	2009 本試	doubt	2015 追試	headache	2017 本試	merchant	1993 本試	regular	2015 追試	technology
1993 本試	ancient	2011 本試	chemistry	2013 追試	doubt	1993 本試	heart	1992 本試	message	2015 追試	relieve	2016 追試	teenage
2015 本試	ancient	1994 本試	chimney	1999 本試	down	2010 本試	heart	2011 追試	message	1996 追試	relieved	1994 本試	theme
2017 本試	appear	1997 本試	choose	2010 追試	dread	1994 本試	hive	2013 本試	meter	1994 追試	religion	2007 追試	therefore
2007 本試	approach	2017 本試	chorus	2009 本試	eager	2012 追試	holy	2012 本試	mighty	1994 追試	repair	1996 追試	thief
1996 本試	arche	2016 本試	church	2010 本試	earn	2008 本試	honest	1992 追試	minister	2016 追試	resigned	1992 本試	thorough
1996 本試	Architecture	2014 追試	cinema	2014 本試	ease	1993 追試	honesty	2014 追試	minor	2007 追試	resist	1993 本試	thought
2011 追試	argue	2012 本試	circumstance	2015 追試	echo	2012 追試	honor	1997 本試	minute	2007 追試	resolve	1999 本試	thought
1993 本試	argument	2007 本試	classic	2007 本試	efficient	1994 追試	hood	1992 追試	misery	2011 本試	resolve	2010 追試	threat
1992 追試	ashamed	2014 本試	classic	2008 追試	embarrass	1999 本試	hood	2015 本試	mission	2014 追試	ritual	2015 追試	threaten
2008 追試	aside	2000 本試	climate	2011 本試	enclose	2015 本試	hook	1993 追試	moment	1998 本試	rose	2007 本試	threat
2017 本試	assert	1995 追試	close	2011 追試	engage	2012 追試	horn	2011 本試	monarch	1992 本試	rough	1999 本試	through
2016 追試	assign	1997 本試	close	2012 本試	enough	2012 追試	horror	1998 追試	Monday	2009 追試	rough	2007 追試	through
1992 追試	assistance	1997 本試	close	2015 本試	expansion	2010 追試	hour	1993 本試	mood	2012 本試	rough	2009 追試	through
2017 本試	association	2007 追試	closely	2009 追試	extreme	1996 本試	house	1993 追試	muscle	1994 本試	route	1992 本試	thumb
1992 本試	assume	1998 追試	cloth	2012 本試	facility	2011 本試	housing	1992 追試	museum	1998 本試	row	2013 追試	thumb
1994 本試	assure	1998 追試	cloth	2010 本試	faith	2012 追試	hunger	1994 本試	myth	1992 本試	rude	1996 追試	tiepin
2007 本試	assure	2011 追試	clothe	1992 本試	false	2016 本試	illegal	2017 追試	narrow	2012 本試	rude	2016 本試	tiger
2017 本試	attach	2017 追試	clothing	1992 追試	fasten	1992 本試	imagine	1994 本試	natural	1992 本試	sacred	2013 本試	title
1995 本試	attacked	1994 本試	coast	2012 追試	father	1994 追試	imperial	1994 本試	naughty	1999 追試	sail	2009 追試	toaster
2017 追試	author	2007 本試	coast	2010 追試	fault	2017 本試	impress	2000 本試	nevertheless	1998 追試	sailboat	2011 本試	toe
2016 追試	average	2014 追試	coast	1992 追試	favorable	2011 本試	increase	2009 本試	newborn	1998 追試	sale	2000 追試	tongue
2009 追試	awkward	1993 追試	cold	2017 本試	fear	2013 追試	input	2015 追試	northern	2010 追試	salmon	2017 追試	toothache
2012 追試	baggage	1994 追試	collapse	2012 本試	feather	2011 本試	instance	1994 本試	notice	1993 追試	scatter	2007 本試	tough
2017 追試	balloon	2016 追試	comb	2012 本試	federal	2008 追試	instinct	2016 本試	occur	1993 追試	scenery	2014 追試	tough
2013 本試	basic	2011 追試	combine	1992 追試	fever	1992 追試	instrument	2014 本試	onion	2000 本試	scenery	1993 追試	tour
2012 追試	bathed	2009 本試	comfort	1993 本試	financial	2013 本試	insurance	2016 追試	only	2010 追試	scent	2013 追試	tragedy
1993 本試	beard	2000 本試	competition	1993 追試	finger	2013 追試	iron	2011 本試	ostrich	1994 本試	scholar	1994 本試	triumph
1998 本試	beautiful	2009 追試	complete	1996 追試	flash	2008 追試	island	2014 本試	oven	2011 本試	scholar	2013 本試	turtle
2000 追試	behavior	2000 本試	completely	2014 追試	float	2008 追試	island	1993 追試	parent	1994 本試	scissors	2000 本試	typical
2007 追試	beneath	1994 本試	confess	1993 本試	flood	2013 追試	island	1997 本試	passe	2000 追試	scratch	2011 追試	underline
2000 追試	blanket	2015 本試	confusion	2015 本試	flood	1992 追試	isolate	1994 本試	passion	1995 本試	screamed	1994 本試	unique
1994 追試	blood	1994 本試	conquer	1993 本試	floor	2013 追試	item	2011 本試	passion	2010 本試	search	2009 本試	urgent
1999 本試	blood	1994 本試	conquest	1993 追試	flour	1994 追試	justice	1996 追試	patient	1994 追試	seize	1999 追試	used
1994 本試	blossom	1993 追試	conscious	2010 追試	flour	2011 追試	justify	2014 本試	pause	1992 追試	sentiment	1999 追試	used
2011 本試	boast	1997 本試	convenient	2008 追試	flow	1992 本試	knowledge	1993 本試	pearl	2013 本試	serious	1992 追試	usual
2010 本試	boot	1999 追試	cotton	1999 追試	fly	2014 本試	label	2010 本試	pearl	2012 追試	shaped	2016 本試	vague
2017 追試	borrow	2011 本試	couch	2010 追試	folk	1993 本試	language	2016 追試	percentage	1994 追試	shepherd	1992 追試	vehicle
2000 追試	bother	1992 本試	cough	2017 追試	foolish	2009 追試	laugh	1998 追試	perhaps	2000 本試	shiver	1994 追試	vision
2017 追試	bother	2009 追試	cough	1993 追試	formal	2012 本試	laughter	1992 本試	permission	2015 本試	shook	2010 本試	vision
1996 本試	bought	1993 本試	country	2009 本試	formal	2009 追試	laundry	1992 本試	permission	1993 本試	shoot	1993 追試	wander
2016 本試	bounded	2016 追試	courage	2011 本試	format	1995 本試	lead	2007 本試	phrase	2014 追試	sigh	1993 本試	wear
1999 本試	bow	1996 本試	cousin	1995 追試	fouled	1995 本試	lead	1994 追試	physics	2000 本試	sightseeing	1994 追試	weary
1999 本試	bow	2008 本試	cousin	2016 本試	founded	2009 追試	leader	2010 本試	physics	2016 追試	signature	1995 本試	weary
1992 本試	bowl	1992 本試	coward	2009 本試	fragile	2008 本試	leaf	1995 追試	pitched	1994 追試	sincerely	2007 追試	weather
2010 本試	breadth	2007 追試	creature	2000 追試	frame	2010 追試	lease	2007 追試	pleasant	1993 追試	singer	2014 追試	weigh
1997 本試	breath	1992 追試	crisis	2000 本試	frequently	2011 追試	leather	1992 追試	pleasure	1998 追試	small	1997 追試	weight
2008 本試	breath	2008 追試	crisis	2011 追試	fridge	2010 本試	leisure	2009 追試	pleasure	1994 追試	smooth	1997 追試	wife
2007 追試	breathe	2008 追試	crowd	1999 追試	friend	2010 本試	length	1992 追試	police	2010 本試	smooth	1994 本試	wilderness
2015 追試	breathe	2017 追試	crowd	2015 追試	furthermore	2011 追試	lengthen	2017 本試	possess	1994 追試	soccer	1999 追試	wind
1997 本試	breathing	2012 追試	cultivate	2012 本試	future	1994 本試	liquid	2008 追試	pound	2007 本試	social	1999 追試	wind
2014 追試	broad	1994 追試	cupboard	1993 追試	garage	2012 追試	listed	1993 追試	pour	1993 本試	society	1999 本試	wooden
2008 本試	brother	2016 本試	curious	2011 追試	garbage	2014 追試	litter	2010 追試	pour	1993 追試	sour	2015 本試	wooden
1992 本試	brought	2016 本試	curtain	2017 追試	gather	1997 追試	live	2014 本試	praise	2010 追試	sour	1993 本試	wool
1992 本試	brush	2012 本試	cute	2017 本試	gear	1997 追試	live	1994 追試	prepare	1993 追試	source	2010 本試	wool
1994 追試	bullet	1993 追試	danger	2012 本試	gender	2014 追試	loan	1992 追試	president	1993 本試	southern	2016 本試	wounded
1992 本試	bury	1993 本試	dear	2012 本試	gene	2016 本試	logical	1992 追試	pretty	1996 本試	southern	1993 追試	wrong
2012 追試	bury	2009 本試	debt	2013 本試	generate	1998 本試	look	1992 追試	pride	2007 追試	southern	1993 追試	younger
		2013 追試	debt	2013 本試	genius	2014 本試	loose	2015 本試	profession	2010 追試	spread		

※1990・1991・2001・2002・2003・2004・2005・2006 年度は発音問題の出題がなかったため、上記のリストには収録されていない

第1問Bはアクセントの問題である。3音節、4音節の単語が頻出されていることがわかる。

第1問B アクセント問題で出題された英単語（アルファベット順）

年度 区分	英単語	年度 区分	英単語	年度 区分	英単語	年度 区分	英単語	年度 区分	英単語	年度 区分	英単語	年度 区分	英単語
2016 本試	abandon	2017 追試	certificate	1994 本試	diameter	2006 追試	fashionable	2010 追試	issue	1997 追試	passenger	2014 追試	resident
2003 本試	absent	2006 追試	challenge	1991 本試	differ	2012 本試	fatigue	1992 追試	jacket	2000 追試	patient	2017 本試	resolution
2016 追試	academy	2013 追試	challenge	1998 追試	difference	1994 追試	festival	1998 本試	journey	1991 本試	pattern	1998 本試	respect
1998 本試	accept	1999 追試	character	2015 本試	dinosaur	2011 追試	final	2000 追試	journey	2012 追試	pattern	2007 追試	responsible
2015 本試	accompany	2016 本試	charity	2008 追試	direction	2010 追試	financial	2000 本試	knowledge	1994 追試	penalty	1990 本試	restaurant
2015 追試	account	1995 本試	circumstance	2011 本試	disadvantage	1990 追試	forget	2011 本試	landscape	2000 追試	percent	2014 追試	reverse
1990 追試	accuracy	2015 追試	circumstance	2006 追試	disagreement	1991 追試	forget	1990 追試	lemon	2013 本試	percent	2013 追試	ridiculous
1991 追試	accuracy	2008 追試	citizenship	2012 本試	disagreement	2002 本試	forget	1991 追試	lemon	1997 追試	percent	2017 追試	sacred
1993 本試	accuracy	2016 本試	civil	2015 本試	discipline	2010 本試	fortunately	2007 本試	librarian	1997 本試	perform	1999 本試	sandwich
2016 追試	accuracy	1995 追試	coffee	2015 追試	discover	2001 追試	function	1992 本試	literature	2013 追試	perform	2017 本試	satellite
1990 本試	accurate	2011 追試	collision	2016 本試	discovery	1993 追試	fundamental	2016 追試	logic	2007 追試	period	1990 追試	satisfy
2008 本試	accurately	2001 本試	colorful	2016 追試	discriminate	2009 本試	fundamental	2001 追試	luxury	1999 本試	permanent	1991 追試	satisfy
2013 本試	accurately	2008 追試	combination	2010 追試	discuss	2014 本試	funeral	1993 本試	machine	2007 追試	personal	1997 本試	satisfy
2009 本試	accustom	1990 本試	comfort	1995 追試	disease	2007 本試	furniture	1999 本試	maintain	2009 追試	perspective	2010 本試	satisfy
1996 追試	acquaintance	2005 本試	comfortable	2011 本試	disease	2017 追試	genetic	1995 追試	maintenance	2013 追試	phenomenon	1990 本試	scientific
2012 追試	active	2004 本試	comment	2001 本試	disgust	2012 本試	geography	1990 追試	manage	1990 追試	philosophy	1992 追試	scientific
1990 追試	activity	1996 追試	commit	1999 本試	distinct	1993 追試	government	1991 追試	manage	1991 追試	philosophy	1998 本試	scientific
1991 追試	activity	2015 追試	committee	2017 本試	distinguish	1993 追試	grammatical	2001 追試	manager	2007 本試	philosophy	2015 追試	scientist
1993 追試	additional	1998 本試	communicate	1994 追試	disturbance	2007 本試	grammatical	2012 追試	manager	2016 本試	philosophy	1990 本試	secret
2014 追試	additional	1993 本試	community	2017 追試	document	2004 追試	greenhouse	2010 本試	manufacture	2006 本試	photograph	1990 本試	select
2008 本試	adequate	2007 追試	community	1994 追試	dolphin	2010 本試	guarantee	2017 本試	marine	2013 本試	photograph	1994 追試	sensitive
2013 追試	adequate	2008 本試	community	2014 本試	domestic	2007 本試	hamburger	2007 本試	material	1994 本試	photographer	1996 本試	sensitive
1996 本試	admirable	1994 追試	competition	2001 本試	drama	2013 本試	hamburger	2016 本試	material	2007 追試	physical	2017 本試	severe
1993 追試	admire	2013 追試	competition	1991 本試	dramatic	2000 追試	hardly	2008 本試	mathematics	2007 追試	pineapple	2009 追試	signature
2006 追試	admire	2005 本試	complain	2013 本試	dynamic	1995 本試	heroine	2007 追試	mechanical	1996 本試	poetic	2011 本試	significant
2015 本試	admire	1996 本試	complicated	2006 本試	ecological	1991 本試	hesitate	1990 本試	medical	1991 本試	policeman	2012 本試	sincere
2010 追試	advantageous	2015 本試	complicated	2012 追試	economic	1997 本試	hesitate	1996 追試	melancholy	2012 追試	politely	2000 本試	soldier
1998 追試	adventure	2015 本試	component	1993 本試	economy	1993 追試	historical	2009 本試	melancholy	2006 本試	political	2001 本試	southern
2000 本試	advice	1990 追試	concentrate	1992 本試	effect	2013 本試	historical	2007 追試	memorial	1998 追試	politician	2014 追試	species
1990 追試	advise	1991 追試	concentrate	2007 本試	effective	2013 追試	honest	2016 追試	memorial	2011 追試	politician	2012 追試	specific
1991 追試	advise	2010 追試	concentrate	2010 本試	effort	2007 本試	horrible	1993 本試	message	1996 追試	politics	1990 追試	standard
1999 追試	agent	1999 本試	concentrate	1997 追試	effort	2017 追試	humanity	2016 追試	method	2007 追試	politics	1991 追試	standard
2016 本試	agriculture	2004 追試	concern	1990 本試	electric	1991 本試	humorous	2016 追試	ministry	2016 本試	politics	1994 本試	standard
1995 追試	allowance	1998 追試	conditioner	2012 本試	electronics	2007 本試	identify	1995 本試	minute	2009 本試	popular	2015 追試	statistics
2015 追試	alternative	2003 追試	conduct	1995 追試	elegance	1992 本試	identity	1997 本試	misunder	1990 追試	portrait	2000 追試	statue
1996 追試	ambassador	2014 追試	conference	2003 追試	elevator	2012 本試	identity	2009 追試	misunderstand	1991 追試	portrait	1992 追試	success
2015 追試	ambassador	1996 本試	confident	2010 本試	elevator	1995 追試	ignorance	2012 本試	modern	2016 本試	potential	2013 本試	success
2015 本試	ambitious	2015 追試	confident	2014 本試	eliminate	2011 本試	ignorant	2015 本試	modest	1999 追試	practical	2015 本試	success
1991 本試	ancestor	2012 追試	congratulate	2005 本試	embarrassed	2012 本試	ignorant	1993 追試	monument	1991 本試	prefer	1995 追試	suffer
2013 追試	anticipate	2001 追試	connect	2007 本試	embarrassment	1996 追試	ignore	1994 本試	mosquito	2010 本試	prefer	2015 本試	sufficient
2017 追試	appearance	2000 追試	conquer	1990 本試	emotional	2012 追試	illustration	2010 本試	museum	1997 追試	prefer	2005 追試	suitcase
2014 追試	appointment	2000 本試	conscious	2007 追試	emotional	1993 本試	image	1991 本試	musician	2011 追試	prejudice	2007 追試	superior
2010 本試	appreciate	1993 追試	consent	1993 追試	employment	1992 本試	imagine	2012 本試	musician	1995 追試	present	1992 追試	supermarket
1996 本試	appropriate	2015 本試	consequence	2009 追試	employment	1994 本試	immigrant	1990 本試	mysterious	2002 追試	present	2011 本試	supreme
2015 本試	appropriate	1993 本試	consider	2013 本試	encourage	1998 追試	impossible	1998 本試	mysterious	2015 本試	preserve	2002 本試	surface
2009 追試	architecture	1995 追試	content	1990 追試	energy	2009 本試	impression	2004 追試	mysterious	2007 追試	president	2010 追試	surface
2013 本試	architecture	2016 本試	continent	1991 追試	energy	2017 追試	impressive	2017 追試	native	2014 本試	priority	1990 追試	surprise
2001 追試	argue	1991 本試	continue	1997 本試	energy	1995 本試	impulse	1996 本試	necessary	2001 本試	problem	1991 追試	surprise
2008 本試	argument	2001 追試	continue	2009 追試	energy	2011 追試	incident	1992 本試	necessity	2007 追試	professional	1997 追試	survival
2013 追試	artificial	2013 本試	continue	2013 本試	energy	2015 追試	income	2017 追試	necessity	1990 本試	program	2014 本試	survival
1996 本試	artist	1991 本試	control	2008 追試	engineer	2017 本試	independence	1993 追試	neglect	2003 本試	progress	1994 本試	suspense
1996 本試	aspect	2005 追試	convenient	1992 追試	engineering	2009 追試	independence	2015 追試	negotiate	1991 本試	progressive	2014 追試	suspicious
2017 本試	assembly	2010 本試	convince	2013 追試	engineering	1992 追試	indicate	2017 追試	neighbor	2015 追試	prohibit	1994 追試	swallow
1991 本試	assistant	1994 追試	cooperate	2002 追試	enjoy	2007 本試	indicate	1999 追試	network	2002 追試	project	2010 本試	sympathetic
1998 追試	astronaut	2010 追試	cooperate	2017 本試	enormous	2017 追試	indicate	2004 本試	network	2014 追試	proposal	2008 追試	sympathy
1994 追試	astronomy	1994 追試	copper	2000 本試	enough	2003 本試	industrial	2012 追試	nevertheless	2011 本試	prosperous	1992 追試	systematic
2012 本試	athlete	2017 本試	correspond	1993 本試	entertain	1990 追試	industry	1997 追試	newspaper	2003 追試	protest	1992 本試	talent
1998 追試	atmosphere	1994 本試	corridor	2004 追試	entertain	1991 追試	industry	2000 本試	novel	1990 本試	provide	1999 本試	technical
2014 本試	atmosphere	1994 本試	corrupt	2012 本試	entertain	2007 追試	industry	2014 本試	novel	2007 本試	psychology	1997 追試	technique
1997 追試	attitude	1992 本試	criticize	2011 追試	entertainer	2017 追試	industry	2001 追試	nowadays	2016 追試	psychology	2012 追試	technique
2010 追試	attitude	1995 本試	crystal	2014 追試	entertainment	1995 本試	infant	2017 追試	obey	1993 追試	purchase	1996 追試	technology
2014 本試	audience	1991 本試	custom	1990 本試	envelope	2011 本試	infect	2005 追試	object	2016 本試	purchase	2006 本試	technology
2009 本試	authority	1997 本試	damage	2007 本試	envelope	1990 本試	influence	2010 本試	objective	2001 追試	purpose	2013 追試	technology
2012 本試	automobile	2010 本試	damage	1996 追試	environment	2013 追試	influential	1990 本試	obvious	2011 追試	pursue	2007 追試	telephone
2011 追試	avenue	2016 本試	decision	2007 本試	environment	2011 追試	influenza	2016 追試	obvious	1994 本試	pyramid	2008 追試	television
1991 本試	balance	2016 追試	declare	2011 本試	epidemic	1996 追試	inform	2010 追試	obviously	2007 追試	quality	2016 追試	temporary
2010 追試	balance	2017 本試	definitely	1990 追試	episode	2010 追試	information	1992 追試	occupy	2013 追試	quantity	2009 追試	terrific
2001 本試	balcony	2013 本試	degree	1991 追試	episode	2015 本試	ingredient	2011 本試	occupy	2017 本試	rapid	2010 本試	throughout
2007 本試	beautiful	1992 追試	delay	2014 本試	equipment	2010 追試	inhabitant	1997 本試	occur	2007 本試	recognize	2008 追試	tomato
2007 本試	benefit	2012 追試	deliberate	2014 追試	equivalent	2016 追試	initial	1990 本試	offer	2016 追試	recognize	2009 本試	transportation
2013 追試	benefit	1996 本試	delicate	1992 本試	essence	2013 追試	injure	1996 追試	offer	2010 本試	recommend	1999 追試	tunnel
2007 本試	bicycle	2014 追試	delicate	2013 本試	essential	1992 本試	insect	1991 本試	official	2002 本試	record	2002 追試	tunnel
1994 本試	biography	2008 本試	delicious	1992 本試	estimate	2013 本試	insect	1999 追試	official	1995 追試	record	2014 追試	tunnel
1996 本試	boycott	1990 追試	delight	2014 追試	ethnic	1990 本試	insist	2012 追試	official	1994 追試	recovery	2017 本試	typical
2015 追試	broadcast	1991 追試	delight	2016 追試	ethic	2000 本試	insist	2009 本試	operate	1991 本試	regret	1999 追試	ultimate
2012 本試	calculate	1992 追試	deliver	1990 本試	event	2016 追試	institution	2013 本試	operator	2016 追試	regularly	2011 本試	unemployment
2009 本試	calendar	1990 追試	democracy	2017 本試	evidence	2007 本試	instrument	1990 本試	opinion	2000 本試	relate	2017 本試	unique
1996 本試	canal	1991 追試	democracy	1997 本試	examine	1995 本試	insult	2007 追試	opponent	2007 追試	relationship	1999 本試	unite
1995 本試	canary	1993 本試	democracy	1996 追試	excursion	2005 本試	insult	2016 本試	opponent	2014 追試	relationship	2016 本試	unite
1995 追試	canoe	2008 追試	democracy	2011 追試	executive	2007 本試	intelligent	2007 本試	opposite	2013 本試	relative	1998 本試	unless
2007 本試	capacity	2017 本試	democratic	1991 本試	exercise	2014 追試	interfere	2014 追試	organic	1995 本試	relief	2014 追試	urban
2009 追試	capacity	2003 追試	demonstrate	2007 追試	exhibition	2017 追試	Internet	1992 追試	organize	1990 追試	religion	2008 本試	utilize
1992 追試	career	2015 追試	demonstrate	2017 本試	expensive	1993 本試	interpret	2014 本試	origin	1991 追試	religion	2016 本試	valid
1999 追試	career	2016 本試	demonstrate	1998 本試	experience	2013 追試	interpret	2007 追試	original	2012 本試	religion	2015 追試	virtue
2012 本試	career	1996 追試	descendant	2007 追試	experience	1992 本試	interrupt	1993 追試	ornament	2001 本試	reluctant	2014 本試	vital
2010 追試	cassette	2002 本試	desert	1992 本試	experiment	2012 追試	interval	2011 追試	outward	2014 本試	reluctant	2001 本試	vitamin
2014 本試	category	1994 追試	dessert	1998 追試	experiment	1991 本試	interview	1991 本試	parade	2007 本試	remarkable	1993 本試	volume
2000 追試	ceiling	2012 追試	destroy	2005 追試	experiment	2007 本試	interview	2014 本試	parade	1993 本試	remember	2012 追試	volume
1990 追試	celebrate	2015 本試	detective	2009 本試	experiment	2014 本試	investigate	2009 追試	participant	1999 本試	republic	2003 本試	volunteer
1991 追試	celebrate	1990 追試	develop	2000 追試	explode	2011 本試	investment	2007 追試	participate	1995 追試	rescue	2010 追試	volunteer
1994 本試	ceremony	1991 追試	develop	2007 追試	fantasy	1994 本試	involve	2008 本試	participate	2014 本試	rescue	2011 追試	wallet
2017 追試	ceremony	2010 追試	develop	2									

表は 1990 年度から 2017 年度までの本試と追試において、アクセント問題として出題された英単語、計 645 個をリストにしたものである。計 645 個の内、268 個は過去に複数出題されている。およそ 2.4 個に 1 個の割合で、同じ英単語が過去に出題されている計算になる。例えば、2016 年度（本試）において、第 1 問 B 問 3 の選択肢③で出題された **demonstrate** は、2015 年度（追試）で、同じ問いと同じ選択肢の番号で出題されている。このことから、まずは過去にセンター試験で出題されたアクセント問題を練習することが得策と言える。特に、日本語の中に定着されつつある“エネルギー”や“キャリア”のようなカタカタ語は、実際の英語と発音やアクセントの位置が異なることが多いので注意したい。

## 第 2 問

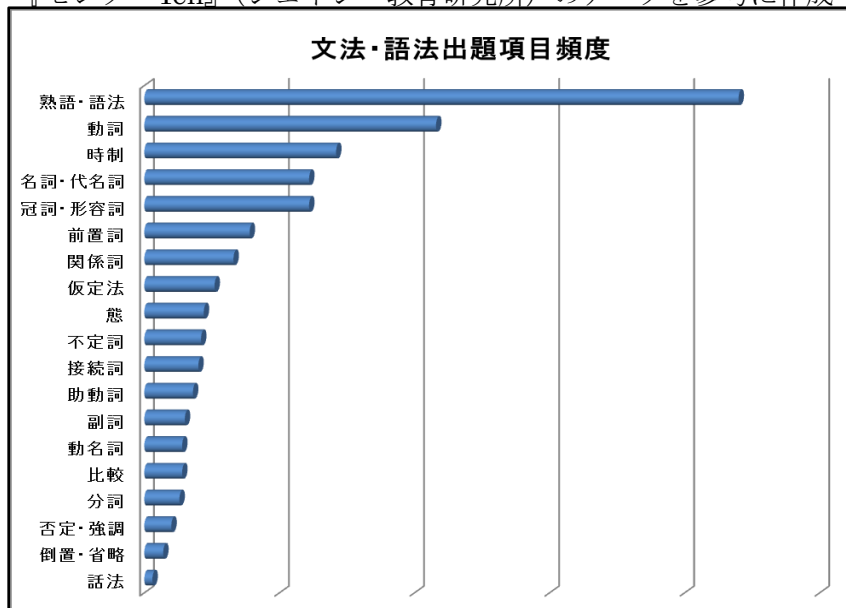
第 2 問は①文法・語法、②語句整序、③応答文完成の問題である。たくさんの量をこなし、形式に慣れ、速く正確に問題を解く力を養うことがポイントになる。第 2 問は、毎年正解率が低いので、ここでは少し詳しく説明したい。

第 2 問 A は文法・語法に関する問題が出題される。第 1 問に引き続き、知識問題となる。2014 年度からは、2 つの空所を補充させる問題が 3 問含まれるようになった。第 2 問 A の問題を多く解きたい生徒は、アプリ『きりはらの森』の中にある“TREND17”を使って勉強することをおススメする。1990 年度から最新の年度までの本試・追試、全ての問題が無料で解くことができる。なお、同アプリの動画では、私が解説する第 2 問 A の攻略方法も見られる。

次に示すグラフは、1990 年度から 2017 年度までの本試・追試で出題された問題を出題項目ごとに分類したデータである。



『センターTen』（ジェイシー教育研究所）のデータを参考に作成



出題頻度が一番高いのは、熟語・語法である。日頃から語彙力を付ける際には、日本語のみ覚えるのではなく、英文を通してどのように使われるのかも注意を払いたい。例えば、次の 2012 年度本試で出題された、問 2 の熟語に関する語彙問題を考えてみたい。



(2012 年度本試)

Could you show me how to make mobile phone ring differently, ( ) who's calling me?

- ① depending on    ② in spite of    ③ on behalf of    ④ relying on

正解：①

depend on=rely on～「～に頼る」と参考書では表記されていることも多く、このようにイコールにして覚えている生徒もいるかもしれない。センター試験は、こういった覚え方に警鐘を鳴らしているということがわかる問題である。depend は de (下に) pend (ぶらさがる) というイメージがある。ぶらさがっている下のものは、上のものがなければ真逆さまに落ちることから、上のもの“次第”という意味が生じる。よって、depend は rely と同じ「～に頼る」という意味の他に「～次第」という意味も有する。なお、文意から「次第」を意味する①が正解となる。こうした句動詞は、センター試験で頻出するので、前述のアプリ『きりはらの森』の中にある“きほんごレシビ”を使って覚えると効果的である。さらに、TREND 17 のアプリを使って、センター試験の過去問題を解くと定着が深まる。熟語など、語彙に関しては「過去に出題されたものは二度と出題されないのでは？」などといった、過去問題を解くことに対する疑問を持つ受験生もいるかもしれないが、動詞の熟語について言えば、発音・アクセント問題と同様、繰り返し出題されることもある。



carry out

(1993 年度追試)

The representatives made a plan for the school festival and the other students carried it ( ).

- ① on    ② out    ③ under    ④ with

正解：②

(2012 年度本試)

After he joined the travel agency, he worked hard to improve his English in order to carry ( ) his duties more effectively.

- ① away    ② back    ③ off    ④ out

正解：④

leave behind

(2000 年度本試)

Bill had to leave his family ( ) when he went abroad to work.

- ① back    ② behind    ③ off    ④ over

正解：②

(2013 年度追試)

I hesitate to take long trips because I have to leave my cats ( ), and I worry about them.

- ① aside    ② away    ③ behind    ④ over

正解：③

turn down

(1991 年度追試)

When I asked him to lend me some money, he ( ) my request.

- ① complained    ② objected    ③ refused to    ④ turned down

正解：④

(2013 年度本試)

I was offered a good position with a generous salary, but I decided to turn it ( ) because I wanted to stay near my family.

- ① around    ② down    ③ out    ④ over

正解：②

実は、正解とはならなかった選択肢が、他の年度の問題では正解になることもある。例えば、bring について、2013 年追試では「引き出す」を意味する bring out が正解となり、「育てる」を意味する bring up は正解とはならなかったが、1991 年追試の問題では正解の選択肢として出題されている。

(2013 年度追試)

Brushing vegetables with olive oil and roasting them in the oven is a good way to bring ( ) their delicious natural flavors.

- ① down    ② in    ③ out    ④ up

正解：③

(1991 年度追試)

Although born in New York, his son was ( ) in California.

- ① brought up    ② developed    ③ grown up    ④ matured

正解：①

なお、1991 年追試では、bring up は過去分詞形で出題されていたが、2016 年本試でも同様に過去分詞形で出題され、正解の選択肢になっている。

(2016 年度本試)

Children ( ) by bilingual parents may naturally learn two languages.

- ① bringing up    ② brought up    ③ have brought up    ④ were brought up

正解：②

このように、語義に関する問題は意味が大切であり、知らない単語が選択肢に含まれていたら積極的に辞書を使って調べるようにしたい。

次に、語法問題について触れてみたい。語法とは語彙の使い方のことである。別の言い方をすれば、単語と単語の相性のことである。次の問題を考えてみたい。

(2016 年度追試)

I'm sleepy, so I'm going to drink a ( ) cup of coffee.

- ① deep                      ② dense                      ③ strong                      ④ tough

正解：③

コーヒーが「濃い」ことを表すのは **strong** である。**dense** も「濃い」ことを表すが、**dense** は密度の“濃さ”を表すことから、正解にはならない。このような問題は日本語訳を覚えるだけでは解けない。まさに、単語と単語の相性の問題である。語法が苦手な生徒は、正解以外の選択肢の単語も辞書などで調べると良いだろう。ジーニアス英和辞典で **dense** の項目を調べてみると、「濃いコーヒーは **strong coffee**」という記述がある（ちなみに、他の辞書では **dense** の項目に、このような記述が見られないことから、ジーニアス英和辞典の執筆者が作問に関わっていたか、あるいは作問者がジーニアス英和辞典を参考に選択肢を作成したという可能性がある）。辞書で調べる際には、意味だけでなく、その単語がどのような単語と、どのように使われるのかを調べてみると、語法の力を身に付けることができる。

文法に関しては、瞬時に問題を解ける力が必要になる。英語が苦手な生徒は、問題を見た瞬間、和訳をする傾向がある。文法問題は、英語のルールが問題になっているのであって、語彙が問題になっているわけではない。助動詞など、意味で区分しなければ解けない問題以外は、和訳をしなくても解けるのである。文法問題を解く上で重要なことは、どこに着目するかということである。例えば、使役動詞 **have** の後ろに“物”が来れば、その後ろは過去分詞形になる。この文法知識さえあれば、次の問題において、数秒で正解にたどり着ける。

(2006 年度本試)

If the pain in your throat becomes worse, have it ( ) at once.

- ① check                      ② checking                      ③ to check                      ④ checked

正解：④

ちなみに、**have+物+過去分詞形**がポイントになった問題は、1991 年度（本試）、1994 年度（追試）、1998 年度（本試）、2004 年度（本試）、2006 年度（本試）、2015 年度（本試）と、これまでに 6 回出題されている。繰り返し出題されるものも文法では存在するので、過去問題を解きながらその傾向をつかむことが大切である。2017 年度（本試）では、**get+物+過去分詞形**も出題され、正解率が一番低く、43.2%（『大学入試センター試験徹底分析』（Benesse）による）であったので、こちらも覚えておきたい。

実は、同じ文法項目であっても、出題の偏りがあり、頻出するものがある。具体例を挙げると、関係詞がその一つである。関係詞は **how, where, whose, whom, that, which** など、実に多くあるが、2017 年度までに関係詞について出題された問題、計 33 問の中で、正解が **what** になる問題が 10 個存在する。およそ 3 分の 1 の確率で関係詞は **what** が正解になる計算である。関係代名詞 **what** は、しばしば **the thing which** とイコールになると習うことがある。単にイコール関係であることを覚えても、それを活用しなければ意味はない。ここでは見方を変え、名詞 2 つ分の働きをするということをおさえておけば、問題を数秒で解くことができることを実感してもらおう。

( A ) I discovered today during craft class was ( B ) I really enjoy making jewelry.

- 正解：③

英語は、語彙と文法が基本と言われている。センター試験の過去問題は良問が多いことから、文法・語法の基礎力を養うには最良の教材となろう。悪問が出題されることはまずないと言っても過言ではない。例えば、連鎖関係詞の問題を比べたい。

Many people criticized me, but I did what ( ).

- 正解：③

That person is one (    ) I think rescued the kitten.

- 正解：③

(BNC)

(COCA)

- 12 -



言語事実から判断すると、立命館大学の問題は、文学作品などで実際に用いられることもある whom を不正解としてよいのかという、疑問の余地がある。センター試験は、このような難問（あるいは判断が分かれる問題）はあえて避けて、答えが明白になるように what を用いた問題を作成する点、良問と言える。センター試験が良問であることから、私立大学ではセンター試験の過去問題に酷似したものが出題されることがある。

I've been living ( ) since I entered university, and I've had to learn to cook. (2000 年度追試)

- ① by oneself      ② for myself    ③ on my own      ④ with only one

正解：③

I've been living ( ) since I entered university, and I've had to learn to cook. (2010 年度桜美林大学)

- ① dependently    ② lonely      ③ alone          ④ apart

正解：③

This river is dangerous to ( ) in July. (1990 年度本試)

- ① being swum    ② swim in    ③ swim it    ④ swimming

正解：②

The river on the outskirts of this village is dangerous to ( ) in August. (2006 年度関西学院大学)

- ① being swum    ② swim in    ③ swim it    ④ swimming

正解：②

このように入試問題は、センター試験の問題を借用する例や、他大学の問題を使い回しする例も多いため、入試によく出題される“頻出問題”が存在するのである。

第 2 問 B は整序問題である（空所が 2 箇所あり、完答）。2008 年度（本試）から会話文における出題が登場し、それ以降、近年は全て会話文の中で出題されている。6 個の語（句）を並び替える問題であるが（2013 年度（本試）、2012 年度（本試）、2008 年度（本試・追試）のように、年度によって 5 個の語（句）の場合もある）、センター試験は日本語訳が付いていないのが特徴である。進研模試もセンター試験に合わせて、1 年生の整序問題であっても日本語訳のない問題に変更された。特に整序問題を苦手としている生徒は、日本語訳が与えられていない整序問題の参考書等を使って、数多くの問題をこなすことがセンター試験対策になる。実は、与えられた英文に対応する日本語訳がないほうが、かえって解きやすいこともある。例えば、日本語訳が与えられていても、かなり意識されて混乱をまねく場合がある。

(2015 年度立命館大学)

心躍る開会式のありさまを聞いて、私は舌を巻いた。

I was (1 exciting 2 hear 3 how 4 opening 5 quite amazed 6 the 7 to) ceremony was.

正解：I was (quite amazed to hear how exciting the opening) ceremony was. 5→7→2→3→1→6→4

受験生にとって、「心躍る」を how exciting, 「私は舌を巻いた」を I was quite amazed と訳出されることを始めから予想することは容易ではない（英作文の力を身に付けたい場合には参考になる問題では

あるが)。日本語訳を与えることによって、受験生をいたずらに混乱させる上記のような異様な整序問題と比べると、センター試験の整序問題は良心的な問題と言える。

ではセンター試験の整序問題を効率的に解く方法を考えてみたい。6個の語(句)を並び替える組み合わせは  $6 \times 5 \times 4 \times 3 \times 2 = 720$  通りとなる。1組わかれれば  $5 \times 4 \times 3 \times 2 = 120$  通り、2組わかれれば  $4 \times 3 \times 2 = 24$  通り、3組わかれれば  $3 \times 2 = 6$  通りに激減し、正解率を上げられる。よって、1つでも多く組み合わせることが整序問題を効率よく解く秘訣となる。組み合わせる際、“小さなかたまりを作ってから大きくそれをまとめる”こと、“動詞(準動詞も含め)の組み合わせから考える”ことを意識したい。組み合わせの例として、「to+動詞の原形」、「助動詞+動詞の原形」、「接続詞+名詞(主語)」、「前置詞+名詞」、「冠詞(所有格)+名詞」、「be+分詞(進行形・受動態)」などがある。“小さなまとまり”を作るときには熟語力が、“大きくまとめる”ときには構文力があれば早く組み合わせることができる。完成したら、①全ての選択肢を用いたか、②意味が通る文になっているか、を忘れずに確認したい。最後の確認作業がしやすいよう、問題を解く際には、選択肢の番号を並べるだけでなく、実際に英語を書いてみることをおススメする。なお、整序問題では、SVOCや後置修飾が狙われやすいので気を付けたい。

(2017年度本試)

Keita: You have so many things in your room.

Cindy: I know. Actually, \_\_\_\_\_ ( ) \_\_\_\_\_ ( ) \_\_\_\_\_ it neat and clean.

① difficult            ② find            ③ I            ④ it            ⑤ keep            ⑥ to

正解: ②⑥ Actually, (I find it difficult to keep) it neat and clean. ③→②→④→①→⑥→⑤

では問題を解いてみることにする。まず、be動詞がなく、選択肢にitと形容詞difficultがあることから、形式目的語を使ったV it 形容詞 to do 構文であることに気付きたい(it difficult to)。残った選択肢の動詞findとkeepは、どちらもSVOC文型を取る動詞であるが、後ろがit neat and cleanであることから、keepは不定詞toの後ろに置き、to keep it neat and clean「それ(部屋)をきちんと整頓し、きれいにしておくこと」を表すことがわかる。最後に、残った動詞findとその主語Iを組み合わせれば完成となる。よって、全体は(I find it difficult to keep) it neat and clean.③②④①⑥⑤となる。最後の確認として日本語訳をすると、「それ(部屋)をきちんと整頓し、きれいにしておくことって難しいと思うの」となり、意味が通じるので、この組み合わせが正解となる。ちなみに、仮目的語itを使ったfind OC構文は頻出問題である。

(2012年度本試)

“Did you install that computer software you bought last week?”

“Yes. And \_\_\_\_\_ ( ) \_\_\_\_\_ ( ) use.”

① easy            ② finding            ③ I'm            ④ it            ⑤ to

正解: ②⑤ And (I'm finding it easy to) use. ③→②→④→①→⑤

上記の問題は、選択肢にfind, it, toがあることから、形式目的語の文であると推測する。次に③I'mが主語であることは明白なので、I'm finding it easy to とつなげる。itがfindの仮目的語で、to以下が真の目的語である。

第2問Cは応答文完成問題である。2014年度追試から出題されるようになった問題形式であり、2017年度（本試・追試）も継続して出題されている。節や語（句）が3列に連なっており、それぞれの列にはAとBの2種類が並べてある。選択肢は8つあり、AとBの全ての組み合わせが用意されていることから、いずれかの組み合わせがわかれば必ずと正解がわかるということはない。過去の問題から考えると、左から順に（1列目から）解く方が得策であることが多い。ただし、1列目と2列目の関係ではなく、2列目と3列目の関係から解く場合もあることに注意したい。攻略は、全体の文構造に気付くことである。

### 1列目から解くアプローチ

David: I don't feel like going out today.

(2017年度追試)

Yuki: Come on! ( ) outside. How about taking a walk along the river?

(A) It's such	→	(A) a nice day	→	(A) as we should go
(B) It's too		(B) nice a day		(B) for us to go

- ① (A)→(A)→(A)    ② (A)→(A)→(B)    ③ (A)→(B)→(A)    ④ (A)→(B)→(B)  
 ⑤ (B)→(A)→(A)    ⑥ (B)→(A)→(B)    ⑦ (B)→(B)→(A)    ⑧ (B)→(B)→(B)

正解：②

上記の問題は、David が外に出かける気分ではないと言っているのに対し、Yuki はそんな David に対して Come on! と、外に出かけようと誘っている内容であることを踏まえる。よって、1列目は too～ (to do) 「あまりに～なので（…できない）」と、否定を含意する(B)は除外できる。(A)の such は、後続に a(n)+ 形容詞+名詞を取ることから、2列目は(A)となり、1列目と2列目の組み合わせは(A)→(A)となる。3列目は、1列目の形式主語 It の真主語である不定詞が来ると予想し、不定詞を含む(B)を選ぶことになる。

### 2列目から解くアプローチ

Richard: Are you sure that Taro went to Chicago this summer?

(2016年度追試)

Gordon: Yes. Because he said so ( ).

(A) when I asked him	→	(A) if he had stayed	→	(A) America.
(B) when I talked to him		(B) if he had visited		(B) to America.

- ① (A)→(A)→(A)    ② (A)→(A)→(B)    ③ (A)→(B)→(A)    ④ (A)→(B)→(B)  
 ⑤ (B)→(A)→(A)    ⑥ (B)→(A)→(B)    ⑦ (B)→(B)→(A)    ⑧ (B)→(B)→(B)

正解：③

この問題は、まず2列目と3列目の関係を考える。stay は自動詞であるが、stay to という組み合わせは考えられない (stay 「滞在する」は、“方向”という動的イメージを持つ前置詞 to 「～へ」とは相性が悪い)。よって、必然的に他動詞の visit が含まれる(B)を選択することで、2列目と3列目の組み合わせは(B)→(A)となる。2列目以降、名詞節が続くことから（1列目は副詞節であり、when と if の副詞

節が接続詞やカンマなしに連続することはないことから、2 列目は名詞節と判断する)、1 列目は名詞節を取ることができる ask が含まれている(A)を選ぶことになる。よって正解は③になることがわかる。このように、第 2 問 C は、前後関係に着目しながら解くことが重要である。

### 第 3 問

第 3 問は①対話文完成、②不要文選択、③意見要約の問題である。この第 3 問から第 6 問までは、ある程度の語数の英文を読ませ、その文脈を把握する力が求められる。

第 3 問 A は対話文完成問題である。2013 年度までは第 2 問で出題されていたが、2014 年度追試から第 3 問で出題されるようになった。ABA, ABAB, ABABA という対話形式がほとんどであるが、2014 年度本試から ABABAB という対話形式も出題され、2015 年度追試、2017 年度本試も同様の形式が含まれていたことから、比較的長めの対話文に慣れておく必要もある（この形式の問題が 1 つも含まれていない参考書は、近年の傾向を反映していない古い（あるいは近年の傾向をつかめていない）参考書と言えるので、参考書を購入する際の目安にすると良い）。なお、設問となる空所は会話全体の後ろの方にあり、会話全体の流れや話の展開が変化する場面をつかんだ上で、空所の直前・直後に着目して解くことがポイントである。正解と考えられる選択肢が見つかった後には、その選択肢を代入して、前後関係の話が矛盾することなく繋がるかどうかの確認も忘れずにしたい。会話全体の流れを把握する際には、代名詞が指すものに注目しながら、プラス（同意や賞賛など）・マイナス（反対・批判など）という概念を用いて選択肢を見ることも時に有効である。特に空所が形容詞の働きをする場合、形容詞は人の主観的判断や感情を反映することから、プラス・マイナスのどちらかに分けて考えられる。空所がプラスかマイナスかに注目しながら解く方法を説明したい。

(2016 年度追試)

Hiro: Did you see Jim Black's latest movie?

Debbie: Yes, I did. The story was outstanding, but....

Hiro: What was wrong?

Debbie: Well, his acting was ( ). I can't believe that the studio cast him in that role.

Hiro: That's a shame.

- ① anything but excellent.                      ② far from unacceptable  
③ unexpectedly wonderful                      ④ well above average

正解：①

上記の問題では、直前 (What was wrong?) の内容から、次の Debbie の発言は、マイナスの要素を含む内容になることが推測できる。選択肢に目を移すと、①anything but excellent「決してすばらしくはない」のみがマイナスの意味になる。よって、正解は①となる。この解法を使えば、消去法で選択肢を減らし、答えをしぼることもできる。次の問題は、先の問題のように空所が形容詞の働きをするものではないが、プラス・マイナスという概念を用いて内容を把握することによって、正解にたどり着ける。



(2013 年度本試)

Brad: Excuse me, Mr. Tani. I'd like to hand in my assignment. I came yesterday, but you weren't here.

Mr. Tani: What time did you come?

Brad: About three in the afternoon.

Mr. Tani: So you still missed the deadline, didn't you?

( ) I can't accept it now.

- ① You don't have any homework today.                      ② You knew the paper was due by noon.  
③ You were supposed to hand it in by today.                ④ Your assignment wasn't important.

正解 : ②

上記の問題では、直前 (So you still missed the deadline, didn't you? 「だったら、それでも期限に間に合っていなかったのでは」)・直後 (I can't accept it now 「もうそれは受け取れないよ」) は、Brad にとってマイナスの内容であることから、当然、空所もマイナスの要素を含んだ内容になることが推測できる。選択肢は、②のみ Brad にとってマイナスの要素 (「君は論文が午後までの提出であることを知っていた」ということは、先生に受け取ってもらえない理由になることから) を含んだ内容であることがわかる。よって、正解は②となる。

(2017 年度本試)

Ken: How about going to Memorial Park this weekend?

Ethan: How far is it from here?

Ken: Well, it takes about two hours by express train.

Ethan: Oh, that's a bit far. How much is it to get there?

Ken: About 6,000 yen. But I've heard it's really beautiful.

Ethan: I know, but ( ). Let's find somewhere else to go.

- ① I don't feel like going out                                      ② it helps us to get there  
③ that's much too expensive                                      ④ we can't miss this chance

正解 : ③

ABABAB という長い対話形式の問題である。問題の直前で、Ken が I've heard it's really beautiful. 「そこ (メモリアルパーク) は本当に美しいと聞いているよ」と発言し、それを受けて Ethan が I know と答えている場面である。ディスコース・マーカの but に注目すれば、その直後はマイナスの要素が含まれる選択肢が来ると予想できることから、①か③に絞ることができる。問題の直後に Let's find somewhere else to go. 「どこか他にいくところを見つけよう」とあり、出かけることまでは Ethan は否定的でないことがわかる。よって、①は消去でき、正解は③となる。会話全体を理解する上でも、プラス・マイナスを活用しながら読んでいくことは有効である。

なお、当然のことではあるが、対話文完成問題において、会話表現（会話で用いられる典型的な表現）をできるだけ多く覚えることも忘れてはいけない。対話文完成問題であっても、文法力はもちろんのこと、会話表現を含んだ語彙力を駆使して解くことも必要である。

(2014 年度本試)

Martha: What do you want to do this afternoon?

Ed: Well, how about going to that new movie?

Martha: Sure. It starts at three o'clock, doesn't it? I'll be ready.

Ed: On the other hand, we haven't played tennis for a long time.

Martha: Oh, come on! ( ) Either is fine with me.

① Change your mind.                      ② Make up your mind.

③ Mind your manners.                  ④ Open your mind.

正解：②

直前の come on! 「さあ（早く）」を「来なさい」という意味しか覚えていなければ、誤読に繋がる可能性がある。また、正解となる②で用いられている make up one's mind 「決心する」を知らなければ、この選択肢を選べない。頻出する会話表現を覚え、語彙力も身に付けておきたい。

第3問Bは、パラグラフのまとまりをよくするために、取り除くべき文を指摘させる不要文選択問題である。2014年度から出題されるようになった比較的新しい問題形式である。東京大学で類似の問題が過去に出題されていることから、2014年度からセンター試験の作問関係者に、東京大学の先生が加わったか、あるいは東京大学の問題を参考にしたか（意図していないにせよ、センター試験はTOEICの問題に似た形式を出題する傾向にあり、東京大学の問題を参考に作問されたのであれば珍しい）、どちらかの可能性がある（ちなみに、センター試験で出題されて以来、東京大学では出題されていない）。

(2014 年度東京大学)

次の下線部(1)～(5)には、文法上あるいは文脈上、取り除かなければならない語が一語ずつある。解答用紙の所定欄に、該当する語とその直後の一語、合わせて二語をその順に記せ。文の最後の語を取り除かなければならない場合は、該当する語と×(バツ)を記せ。カンマやピリオドは語に含めない。

(1) Of all the institutions that have come down to us from the past none is in the present day so damaged and unstable as the family has. (2) Affection of parents for children and of children for parents is capable of being one of the greatest sources of happiness, but in fact at the present day the relations of parents and children are that, in nine cases out of ten, a source of unhappiness to both parties. (3) This failure of the family to provide the fundamental satisfaction for which in principle it is capable of yielding is one of the most deeply rooted causes of the discontent which is widespread in our age.

For my own part, speaking personally, I have found the happiness of parenthood greater than any

other that I have experienced. (4) I believe that when circumstances lead men or women to go without this happiness, a very deep need for remains unfulfilled, and that this produces dissatisfaction and anxiety the cause of which may remain quite unknown.

It is true that some parents feel little or no parental affection, and it is also true that some parents are capable of feeling an affection for children not their own almost as strong as that which they feel for their own. (5) Nevertheless, the broad fact remains that parental affection is a special kind of feeling which the normal human being experiences towards his or her own children but not towards any of other human being.

正解：(1) has × (2) that in (3) for which (4) for remains (5) of other

センター試験では、東京大学の特徴ある問題形式をそのまま借用することを避け、不要文選択問題となっている。センター試験の問題は、文と文の流れに注目させ、論理の一貫性を問うことから、一見すると難しいように感じられるが、それほど難易度は高くない。まずは段落の主題をつかめば良い。そのためには段落のはじめに注目することである。ちなみに、主題は段落のはじめに示されることが多い（なぜなら、主題を理解した上で読み進めていく方が、読者にとって読みやすいため）。次に、情報構造に着目しながら読むことである。そうすれば、前後の内容に合わない不要文は見つけられる。なお、情報構造とは、旧情報→新情報（名詞が次の文から代名詞になることも含む）、抽象→具体といった情報の流れのことであり、英文を読む際、論理展開を把握する上で重要なものである。これらの解法を用いて、実際の問題を解いてみることにする。

(2016 年度追試)

People can show courage in dangerous situations. For example, someone pulling an injured person out of a crashed car after an accident is considered brave. However, people do not need to be in dangerous situations to show courage; they can do it in any type of situation. I will give you the example of my friend Sophie. ① Even though she was afraid of flying, she boarded a plane for the first time to see her parents. ② She knew that her parents had never flown even though they were not afraid of flying. ③ Her fear was based on her belief that such a big and heavy machine should not be able to fly in the air. ④ Before getting on the plane, she was shaking with fear, but she overcame that feeling. I think that Sophie getting on the plane was as courageous as someone taking a risk to help at the scene of a traffic accident.

正解：②

上記の問題は、最初の文で導入がなされ、However の後で、主題が「人々が必ずしも危険な状況の中でだけ勇気を示すわけではない場合」であることがわかる（主題の発見）。下線部①の直前の文では、友人である Sophie の例を挙げると述べている（抽象→具体）。よって、下線部①からは、その友人 Sophie に関する内容であると推測できる。下線部①では飛行機に乗ることは怖いけど、両親に会いに行くために初めて飛行機に乗ったことが述べられている。しかし下線部②を読むと、「両親は飛行機に乗ることは怖くないと思っているが一度も乗ったことがなかった」と、急に Sophie の両親の話に変わっていること

に気付き、Sophie に関する内容ではなく、論点がズレていることから、②が不要文であると推測できる。不要文と思われる文を見つけた際、その文を除いて前後が繋がるかどうかの確認をする。②の英文を取り除いた場合、③は Her fear で始まり、①の文 (Even though she was afraid of flying) と内容が重なっていることがわかり (旧情報)、her belief that such a big and heavy machine should not be able to fly in the air. (新情報) へと続いていることから、まとまりのある文になる事が確認できる (旧情報→新情報)。このように、まずは主題をつかみ、情報構造に着目しながら読むと、文章の流れを止める不要文に気付くことができる。

#### 代名詞に着目して解くアプローチ

(2017 年度追試)

A major change in French cuisine, one of the most famous styles of cooking, began in the 16th century. ①When Catherine de Médicis of Italy moved to France in the middle of the 16th century, she brought her professional cooks with her. ②Everywhere in France, there were many varieties of delicious cheeses and wines prepared for local people. ③They changed French cuisine in many ways, yet this new French cuisine was still limited to the noble class. ④As a result of the French Revolution in the late 1700s, the cooks employed by the noble class lost their jobs and therefore opened restaurants for ordinary citizens. This is one of the theories about the birth of today's French cuisine.

正解：②

不要文選択問題は、代名詞に注目すれば解ける場合があることを述べておきたい。③の They は前文の複数形の名詞を受けることから、②の many varieties of delicious cheeses and wines か local people のどちらかになるはずであるが、内容と一致しないことがわかる。そこでさらに前の文①に目を向けると、複数形の名詞 her professional cooks があり、先ほどの③の主語 They に当てはめると、「彼女の(彼女が連れてきた)プロの料理人が様々な方法でフランス料理を変えたのだが、この新しいフランス料理も依然として貴族社会に限定されていた」と意味が通る文になる。よって、②が不要文であることがわかる。

この問題が次年度においても出題されれば5年目となり、受験生が十分に対策をして挑めることから、これまでになかった形式、例えば最初の文、あるいは最後の文に下線を引いて難易度を上げてくる可能性もあるので注意したい。不要文選択問題を苦手とする生徒は、対策の手始めとして、1992年度～2006年度までの第3問Bで出題された文整序問題を解くことから始めるのも1つであろう。文整序問題は、情報構造に着目しながら論理展開を理解するための基礎力を身に付けるのに適している。

第3問Cは、意見要約問題である(2013年度までは第3問Bで出題されていた)。2007年度から出題された形式であり、議論の中に出てきた意見を別の言い方でまとめさせるものが3題出題される。2017年度本試では、登場人物が過去最高の6人であった。加えて、2017年度の本試・追試では、複数の人物の発言を要約したものを問う新たな問題が出題されていたことに注意したい。なお、取り上げられるテーマは身近なものが多いことから、普段から新聞やテレビのニュースなどに関心をよせて物事を考えている受験生にとっては取り組みやすい問題と言える。これまで出題された議論のテーマを以下に示す。



『センターTen』（ジェイシー教育研究所）のデータを参考に作成

年 度	テーマ	年 度	テーマ
2007年度本試	テレビゲームの影響	2012年度本試	テレビの子どもへの影響
2007年度追試	体育の授業時間数	2012年度追試	校舎の建て替えについて
2008年度本試	制服規定への3人の生徒の意見	2013年度本試	空き地をどんな公園にするか
2008年度追試	携帯電子機器の功罪	2013年度追試	修学旅行の旅程
2009年度本試	友情における量と質	2014年度本試	アメリカの高校で教えるべき外国語は？
2009年度追試	学校でのインターネットの利用規制について	2014年度追試	自転車事故を減らす方策
2010年度本試	高齢者に対する特別な言動の是非	2015年度本試	迷信とは
2010年度追試	趣味とは何か	2015年度追試	リーダーシップ
2011年度本試	役者の性格と演技上の役の関係について	2016年度本試	異文化理解
2011年度追試	大学在学中における一人暮らしの是非	2016年度追試	ジャーナリズム
		2017年度本試	市の発展
		2017年度追試	農場での体験実習

問題の解法として、第3問Cは日本語の指示文に、英文の内容に関するテーマが示されていることから、まずは指示文を読み、テーマが何であるのかを把握したい。次に、意見要約の問題であることから、話し手の主張が書かれている箇所を見つけたい。話し手の主張は、話し手の主観的判断を表す形容詞（important や necessary など）や逆接（but や however）の後、主張を表す際に用いられる think や believe といった（思考）動詞、should, must といった助動詞が含まれていることが多いので、これらの単語が出てきた際には線を引いておくと、話し手の主張が書かれている箇所を識別しやすくなる。なお、英語のパラグラフは、以下の構造になる事が多いので、参考にすると良い（どこに何が書いてある、その目安になることがある）。

**BODY PARAGRAPH**（一般的に言われているパラグラフ・段落）

- ① TOPIC SENTENCES（主題文）：最初は、そのパラグラフで述べようとする主題が書かれている
- ② SUPPORTING IDEA（支持文）：次に話し手の考えを支持するための理由付けや立証が行われる
- ③ DETAILS / EXAMPLES（具体例）：主張を支持するための詳細な例（具体例）が示される
- ④ CONCLUSION（結論）：主張内容の中で重要なことを再度述べ、結論へと結びつけられる

このように、話し手の主張は冒頭と末尾に来る傾向がある事から、特にその2箇所に注意を払い、論理展開を整理しながら読みたい。言い換え（that means など）や例示（for example など）、追加（also など）、逆接（on the other hand など）、因果（therefore など）のようなディスコース・マーカー（談話標識）を意識しながら読むと、論理の展開を整理することができる。なお、「例示」の前、「逆接」や「因果」の後ろには、重要な情報が置かれることが多いので、これらを表すディスコース・マーカーには特に注意したい。一部抜粋した問題を解きながら解法を確認する。

（2014年度本試）

次の会話は、アメリカのある高校でカリキュラムを見直すにあたり、教師たちが外国語教育について議論している場面の一部である。（ ）に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

Ted: For the past 20 years our school has been offering French and Spanish. However, times have changed and perhaps we should reevaluate the needs of our students. I've heard

some suggest that native English speakers don't need to study a foreign language because English has become a global language. I'd like to get your views on this.

Jennifer: Well, with the globalization of many businesses, knowing a foreign language has become increasingly useful in the workplace. In business situations, when you're negotiating with people from other countries, it's obviously a disadvantage if they know your language but you don't know theirs. Also, by studying a foreign language, students can learn about various customs and cultural values of people from different parts of the world. This can smooth business relationships.

Ted: So, Jennifer, I guess you're saying that ( ).

- ① English is the most common language in the business world
- ② it's a disadvantage to use a foreign language in business
- ③ knowing a foreign language can have a practical, career-related benefit
- ④ studying business skills contributes to foreign language learning

正解：③

日本語の指示文から、議論のテーマが「外国語教育におけるカリキュラムの見直し」であることがわかる（指示文を読みテーマを把握）。議論は、英語母語話者が外国語を学ぶ必要はないという人もいることについて、Ted が Jennifer に意見を求めることから始まる。Jennifer の発言の冒頭は、Well, with the globalization of many businesses, knowing a foreign language has become increasingly useful in the workplace.で始まっており（主題文）、後続の文に逆接がないこと、プラスの判断を表す形容詞 useful を用いていることから、Jennifer は“外国語を知っていると、役に立つことが多くなってきていることから重要である”と考えていることが推測できる（話し手の主張）。選択肢を見ていくと、主題が「外国語」であるにもかかわらず、「英語」になっているもの（①）や「ビジネスの技術」になっているもの（④）があり、論点がズレているので消去できる。選択肢②は、マイナスを意味する disadvantage が用いられており、話し手の主張とは反対であることから、正解は残った選択肢の③であることがわかる。このように、意見要約問題を解くためには、議論全体の流れや展開を正確に追っていきながら、話し手の主張を捉えることが必要となる。なお、正解の選択肢に含まれる a practical, career-related benefit は、支持文(SUPPORTING IDEA)と具体例(DETAILS / EXAMPLES)が述べられている In business situations から relationships までをまとめた表現である。選択肢は、本文では使われなかった英語で本文の内容を言い換えることが多いのがセンター試験の特徴であることも付け加えておく（本文で用いられた英語が選択肢で多く見られると、正解のように錯覚する場合もあるので気を付けたい）。

次に、2017 年度から新たな傾向として出題された、2 人あるいは発言者全員に共通する内容の要約問題を見ていく。2016 年度までは、1 人の発言者の主旨を把握すれば解くこともできたが、2017 年度からは一筋縄では解けないので気を付けたい。なお、センター試験対策に関する学習参考書を購入する際には、この新しい傾向の問題を押さえているかどうかを基準に選ぶと良いだろう。2017 年度追試でも出題されていたことから、2018 年度も引き続きこの問題は出題されると予想できる。

次の会話は、「農場での体験実習」をテーマとして、あるアメリカの大学で行われた授業でのやりとりの一部である。□ 1 □ ～ □ 3 □ に入れるのに最も適切なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

Prof. Becker: This is our first class since you all finished your eight-week-long farm work experiences throughout Washington State. I'd like you to share some stories of your experiences. Who'd like to go first? Go ahead, Melanie.

Melanie: I was interested in traditional farming, and I thought many of the methods might be very useful in modern commercial farming, too. So I chose a farm that adopted ways of farming once used in the region. The workers there don't use any artificial chemicals. They plant various crops together in a field, rather than planting only one. I didn't really know planting multiple crops would help prevent plant diseases, decrease the number of harmful insects, and maintain the quality of the soil. At the same time, I was surprised that workers on this small farm were using very modern technology. For example, they used computers to decide when to supply water to their fields. In short, these farmers were □ 1 □ .

- ① integrating older and newer farming techniques
- ② spraying artificial chemicals according to the schedule
- ③ updating and developing advanced computer software
- ④ using insects to protect crops from harmful diseases

正解 : ①

Prof. Becker: Thank you, Melanie. That's interesting. Who'd like to speak next? Eric?

Eric: Yes. I was working on a small farm, too. I spent most of my time keeping the plants healthy by monitoring the soil. This farm used the latest methods for analyzing it. Using the data obtained, the workers maintained the quality of the soil and planned for the next crops. They were making use of new developments in biology and chemistry in their farming. I was very impressed. I hadn't thought I could apply my knowledge of chemistry to farming. I'll definitely consider farming as a future job.

Ann: I was also a small farm. I come from a big city, and I hadn't even planted flowers in a garden before. So I'd never thought about becoming a farmer. But I'm interested in food safety and wanted to try working in agriculture. I learned that modern techniques maintained the condition of the plants very effectively without affecting the safety of vegetables. Through this experience, I realized that working on a farm is a very attractive option for me in the future.

Prof. Becker: It seems that you both 2 . So, is there anyone who went to a large farm?  
Yes, David?

- ① are worried about the safety of the products
- ② made a lot of money working on small farms
- ③ see farming as a potential career choice now
- ④ used your knowledge of chemistry for farming

正解 : ③

David: The farm I went to was a huge commercial wheat farm. Because it covered a large area, it wasn't easy for the workers to remember the places where they had supplied water and sprayed chemicals. They said they would often mistakenly work in the same place twice. Now, navigation systems enable them to avoid excessive application of chemicals and water. This makes their farming much more efficient. Otherwise, they would waste too much time.

Ann: Wow! That's very different from what I experienced.

Prof. Becker: Thank you, David. You all have learned some different things. However, from your experiences, it seems that regardless of the size of their farms, farmers 3 on their farms. Does anyone have any further comments?

- ① adopt navigation systems
- ② maintain traditional methods
- ③ rent watering devices
- ④ use modern techniques

正解 : ④

1 は、文頭に言い換えのディスコース・マーカーの 1 つ In short(要するに)があることから、発言者である Melanie の要旨が答えとなる。主観的判断を表す形容詞 useful や主観的感情を表す形容詞 interested が最初の発言にあることに着目すれば、Melanie は伝統的な農業(traditional farming)に興味を持っており、それが現代の商業農業(modern commercial farming)においても有効であるという考えを持っていることがわかる(主題文の発見)。2 つの異なる形容詞 traditional と modern が用いられていることから、この 2 つの融合策に Melanie は関心を寄せている可能性があることも推測できればなお良い。さらに 1 の主語が farmers であることから、この名詞を手掛かりにして SKIM をすると効率よく正解の根拠となる文を探すこともできる。SKIM すると、第 3 文に、The workers there don't use any artificial chemicals 「そこで働く人たち(農夫たち)は、いかなる人工的な化学肥料も使わない」、第 6 文に workers on this small farm were using very modern technology 「この小さな農場で働く人たち(農夫たち)は、非常に現代的な技術を使っていました」と、いずれも農夫たちの事柄が書かれおり、これら 2 つをまとめた選択肢①「従来の農業技術と新しい農業技術を融合させていました」が正解となる。



選択肢②は本文とは正反対の内容であり、選択肢③と④に関しては、本文で言及されていない内容であるため不正解となる。

2 は、直前に both があることから、2 人 (Eric と Ann) の発言に共通する内容が答えとなる。なお、根拠となる文について、Eric の発言では最終文 I'll definitely consider farming as a future job 「私は明確に将来の職業として農業を考えます」、Ann の発言でも同様、最終文 I realized that working on a farm is a very attractive option for me in the future 「私は農場で働くことが将来の私にとって非常に魅力的な選択肢であるということがわかった」から、2 人共農場で将来働くことに肯定的であると判断でき③の「農業を職業選択の可能性の一つとして今は見ている」が正解となる。なお、共通した内容には共通の語が用いられる傾向にあることにも気付きたい。Eric の発言内容にある動詞 consider と Ann の発言内容にある動詞 realized は、どちらも認識系の動詞であること、さらにはどちらの発言にも future という語が用いられている。2017 年度から出題された、2 人の発言者に共通する要旨を選ぶ問題には、この解法が使える場合もあることを覚えておくと良い。

3 は、登場した人物全員の発言に共通する内容を選択肢から探す問題である。2018 年度も引き続き出題された時には、3 つある問の中で、こちらの問の選択肢に目を先に通してから本文を読み進めていくことが得策である。様々な発言者の詳細な内容について問題を解くまで覚えておくことは難しいからである。選択肢を確認する際には、それぞれの選択肢の中に含まれる名詞 (それぞれ①は navigation systems, ②は traditional methods, ③は watering devices, ④は modern techniques) と、直前にある主語である名詞 (farms) を SKIM すると良い。ちなみに、問題の性質上、正解となる選択肢は、全ての内容を内包できる抽象度の高い名詞を含んでいる可能性が高く、反対に具体的な内容を表す名詞が含まれる可能性は低いと考えられる。本文を読んでいくと、Melanie の発言に workers on this small farm were using very modern technology 「この小さな農場で働く人たち (農夫たち) は、非常に現代的な技術を使っていました」、Eric の発言に This farm used the latest methods for analyzing it 「この農場ではそれ (土壌) を分析する最新の方法を使っていた」、Ann の発言に I learned that modern techniques maintained the condition of the plants very effectively without affecting the safety of the vegetables 「私は現代の技術が野菜の安全に影響を及ぼさずに植物の状態を非常に効果的に維持することを知った」、David の発言に Now, navigation systems enable them to avoid excessive application of chemicals and water 「今はナビゲーションシステムが彼ら (働いている人たち) に化学製品と水の過剰な散布を防ぐことを可能にしている」とあり、4 人 (Melanie, Eric, Ann, David) 全員の内容をまとめた選択肢は④「現代的な技術を使っている」であることがわかる。なお、選択肢①は David の発言内容のみ、選択肢②は Melanie の発言内容のみで、他の発言者と共通した内容ではない点に注意すれば、本文で言及されているが、不正解であると見抜くことができる。③の内容については本文では誰も言及していないので不正解となる。

#### 第 4 問

第 4 問は図表問題である。図表を見ながら、必要な情報を英文の中から早く、正確に読み取らせる問題が主であるため、情報処理能力が求められる。2007 年度からは、A (図・グラフなどに関する問題) と B (広告問題) に分かれて出題されるようになった。

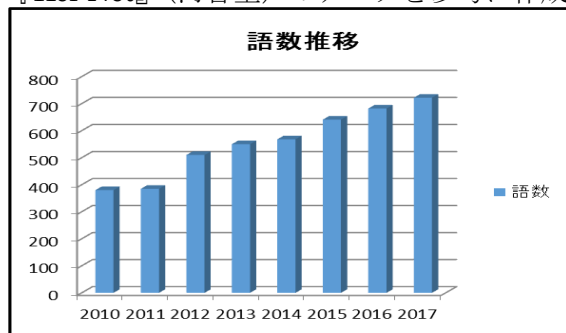
第 4 問 A は、センター試験実施から継続して出題されている図表 (図・グラフ) 問題である。

『センターTen』（ジェイシー教育研究所）のデータを参考に作成

年度	棒グラフ	表	折れ線グラフ	円グラフ	帯グラフ	地図	積み上げグラフ	レーダーチャート
1990本						ジャクソン市の案内		
1990追	家計支出の年次変化							
1991本			5カ国の失業率の年次変化					
1991追						ニューポート町の案内		
1992本		利用しているニュースソースの変遷			輸出入の10年間の変化			
1992追								
1993本		4カ国の食料自給率比較						
1993追	日本の家庭の食費							
1994本		担任教師の印象						
1994追		5カ国の親が子を大切に思う理由比較						
1995本			図書館司書の本選出の年次変化					
1995追		3カ国の価値観と文化						
1996本						劇場の座席位置		
1996追							4カ国の余暇活動の比較	
1997本		登山者が関心を示すものの調査結果						
1997追	古紙回収の実験結果							
1998本		イメージすることと状況理解						
1998追	傾度を表わす言葉と数値で表わすと							
1999本	記号の認識率調査の結果							
1999追		交通機関利用の変化						
2000本					子供の問題解決力の調査			
2000追			輸入果物の消費量推移					
2001本				世代による髪型の流行の変化				
2001追				5都市の摂取カロリーの比較				5都市の暮らしやすさの調査
2002本								
2002追	魚の養殖法の研究							
2003本								
2003追								
2004本	5カ国の労働と休暇の比較							
2004追			5カ国の労働と休暇の比較					
2005本	6カ国の海外旅行の収支比較		エネルギー資源の変遷					
2005追	6カ国のODA輸出額の比較		6カ国のODA輸出額の比較					
2006本	日本のボランティア活動事情							
2006追	アメリカ人の余暇の過ごし方							
2007本			清涼飲料生産量の推移					
2007追		健康維持と適切な運動						
2008本		人工衛星						
2008追	留学プログラムの評価							
2009本			熱帯雨林の保護					
2009追			日本のコンビニの現状					
2010本	多様化する来日外国人の目的地							
2010追	海外で暮らす日本人							
2011本	価値多元社会におけるコミュニケーターの条件							
2011追		生涯学習活動支援施設に関するデータ						
2012本			水分含量による木材の伸縮					
2012追	学生の留学先の占有率							
2013本		世界各国の医療の現状と対策						
2013追	太陽系の惑星の平均表面温度							
2014本	アメリカにおける州間移住に関する研究							
2014追			イギリスにおける人々の移動調査					
2015本	SNS利用の危険性に関する調査結果							
2015追		8000メートル級の登頂に成功した登山家						
2016本			米国のオレンジの輸入量と生産量				米国のオレンジの輸入と生産量	
2016追		米国における通勤方法の違い						
2017本	生徒たちの年齢と運動場使用時間の比較							
2017追	子供の健康や行動と睡眠時間の関係	子供の健康や行動と睡眠時間の関係						
計	21	15	12	3	3	3	2	1

過去に出題された図表の大半が、棒グラフ、表、折れ線グラフ、であることが特徴としてわかる。図表からデータを読み取ることに、日頃から慣れておきたい。近年、2016年（本試）（追試）、2017年（追試）と、図表・グラフが2つ含まれる問題が出題されているので、複数のデータを処理することに慣れておく来年の対策になるだろう。本文を読み取り、図・グラフの空所に適するものを入れさせる問題や内容一致の問題が出題されるほか、2014年度からは本文の主旨を答えさせる問題、最終段落に続くものを選ばせる問題が出題されるようになり、新しい傾向も見られる。第4問Aは、語数が2010年度からは連続して増加傾向にあるので注意したい（5年前と比べても約300語増加している）。

『Kei-Net』（河合塾）のデータを参考に作成



年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
語数	380	385	510	550	568	641	682	722



また、研究・調査に関する英文は、「目的」、「方法」、「結果」などが示されることから、experiment / survey / investigation 「実験、調査」や be carried out / conducted / performed 「行われる」など、図表問題で頻出する特有の表現も確認したい。

第4問Aの問題の特徴としては他に、設問の答えの根拠が、設問の順に本文中に出てくるとは限らないこと（本文を読みながら、問1、問2、問3の順に答えられるとは限らず、例えば2014年度では、問3、問1、問2の順に本文において、答えの根拠が述べてあった問題が存在するという意味）、解答の根拠となる箇所が分散している場合があること、が挙げられる。他の読解問題と同じように、設問に先に目を通すことはもちろんのことであるが、本文を読む際には、特に英文が図・グラフに関する内容であることから、英文やデータから情報を正確に収集するために、適宜メモを取りながら読み進めていくことが必要不可欠である。設問は、本文のみで解答できるもの、図表だけで解答できるもの、両方の情報が必要なもの、があるので、それぞれのパターンをつかんで識別できるようにしておくが良い。

次の問題のように、設問では“図と本文から言えること”を選ぶ指示であっても、“図だけ”で、あるいは“本文を読むだけ”で解ける問題もあることに留意したい。

(2017年度追試)

Figure 1 shows that Teenagers tended to spend more time on screen-based activities than did Children, whereas Children spent more time on self-care activities than did Teenagers. Both groups had a similar tendency in the relationship between Screen time and the lateness of going to sleep in that young people with longer Screen time were likely to go to bed later. Thus, it may be appropriate to aim at cutting the length of time spent doing screen based activities. This would help encourage those aged 18 and under to go to bed earlier and sleep longer.

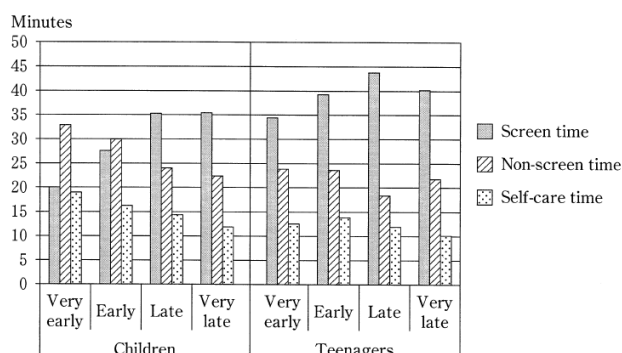


Figure 1. Comparison of the average times according to behavioral sets and lateness of going to sleep for Children and Teenagers.

According to the passage and Figure 1, which of the following statements is correct?

- ① Children are likely to spend less time doing screen-based activities than Teenagers.
- ② Children in the category Early tend to have longer Screen time than Teenagers.
- ③ Teenagers are likely to spend more time taking care of themselves than Children.
- ④ The more Non-screen time participants of both age groups have, the later they go to sleep.

正解：①

図を見ると、子供たち (Children) はティーンエイジャーたち (Teenagers) よりも、どの時間帯 (Very early, Early, Late, Very late) においても、(コンピュータやテレビを見るなどの) 画面を使った活動の時間 (Screen time) が少ない傾向にあることがわかる。よって、正解は①となる。この問題は、図を見なくとも、本文の1行目 Figure 1 shows that Teenagers tended to spend more time on screen-based activities than did Children 「図1は、ティーンエイジャーたちが画面を使った活動に、子供たちよりも時間を費やす傾向にあったことを示している」を読むだけでも答えることができる。

次に、2014年度から出題された、最終段落に続くものを選ばせる問題に触れたい。初出の2014年度の正解率は19.9%と低かったが、次年度以降、2015年度、2016年度、2017年度は、それぞれ70.5%、70.7%、55.8% (『大学入試センター試験徹底分析』(Benesse)による) と、正解率は上がっている。ここで不正解になると、他の受験生と差がついてしまうので、確実に得点したい。2014年度の本試と追試は、初出ということもあり、正解率は低かったが、解法テクニックで、正解にたどりつけた問題である。

(2014年度本試)

The study went on to explore the reasons why “movers” leave their home states and “stayers” remain. As for movers, there is no single factor that influences their decisions to move to other states. The most common reason they gave for moving is to seek job or business opportunities. Others report moving for personal reasons: family ties, the desire to live in a good community for their children, or retirement.

What topic might follow the last paragraph?

- ① Reasons why some Americans stay in their home states.
- ② States that attract immigrants from other countries.
- ③ Types of occupations movers look for in other states.
- ④ Ways to raise children in a magnet state community.

正解：①

上記は一部抜粋した問題である。主題文が書かれることが多い1行目に着目すると、研究では movers 「移住者」と stayers 「残留者」の理由を探ったとある。この主題文から、後続にはそれぞれの理由が述べられると予想できるが、主題文以降、stayers の理由に関する記述がないことがわかる。よって、最終段落に続くものとして、まだ記述されていない stayers の理由が来ると予想でき、stayers に関する記述が唯一なされている選択肢①が正解となる。この手の問題には、解法テクニックが存在する。主題文に

において、順接 and を用いて A and B と並んでいた際、B に着目する。その B の箇所が本文に記述されていなかった場合、B に関する内容が後続すると予測し、解答するテクニックである。ただし、2015 年度以降、出題形式の変更はないものの、解法の傾向が変わっていることから、注意しなければならない。センター試験も、テクニックでは解けない問題へと難易度を上げていると考えられる。

(2016 年度追試)

As more cities invest in making walking and bicycling easier, the popularity of non-motorized travel should also increase. Still, the 2012 study also identified several social and financial factors that will need to be overcome before higher rates of use for these transportation methods can be achieved.

What topic is most likely to follow the last paragraph?

- ① Challenges facing non-motorized transportation use
- ② Financial issues limiting motorized transportation use
- ③ Rates of use for non-motorized transportation
- ④ Strategies to promote motorized transportation use

正解：①

段落の冒頭には、徒歩や自転車での移動を容易にするために、支出する市が増えるにつれ、移動に自動車以外を活用する率が上がることが述べられている。本文の内容に照らし合わせた場合、この冒頭の文はプラスの内容であるが、次の文は、逆接の Still で始まっていることから、マイナスの要素を含んだ内容に転じられることに注意したい（逆接の後ろには重要な情報が置かれることが多いことも思い出したい）。逆接(Still)から後ろの文では、自動車以外の移動手段の割合を高くするには、克服すべき社会的・財務的要因があることを 2012 年の研究が明らかにしたことが述べられている。よって、最終段落に続く内容は、自動車以外の移動手段の割合を高くすることに伴う課題が述べられることが予想され、正解は①。なお、このような問題であっても、読解の基本である、“逆接の後ろの文や話し手の主観を反映させる助動詞が含まれている文は、重要な文になる”ということさえ意識していれば、決して難しくない。

2017 年度追試では、これまでの問題文にあった“最終段落に続くものとして最も可能性が高いものはどれか”という表現から、“次のトピックの内、筆者が焦点を次に当てるものとして最も可能性の高いものはどれか”と、少し表現を変えて出題されているので、2018 年度本試では注意が必要である。2014 年度から継続して出題されてきた結果、マンネリ化と解法のマニュアル化を防ぐ目的で変化を加えてきた可能性がある。解法もこれまでとは異なるので少し見ていきたい。

(2017 年度追試)

Through this study, the researchers explored the specific times at which participants went to sleep. In order to see their sleeping habits more clearly, though, how long they actually spent sleeping must also be considered. There is a need, therefore, to look into this in relation to the activities discussed so far in the present study. We will focus on this in the following section.

What of the following topics will the authors most likely focus on next?

- ① A response to critical views on the Screen time use among the younger participants
- ② Advice related to ways to encourage children and teenagers to go to bed earlier
- ③ An account of how pre-sleep activities relate to how many hours young people sleep
- ④ Discussions of a study that compared the screen time use of early and late sleepers

正解：③

段落の最後に We will focus on this in the following section. 「次節では、これ (this) に焦点を当てていく」とあることから、this が指す内容が答えとなる。前文に目を移すと、There is a need, therefore, to look into this in relation to the activities discussed so far in the present study. 「それゆえ、本研究では、これまで議論された活動 (pre-sleep activities) に関係してこれ (this) を詳細に見ていく必要がある」とある。“これまで議論された活動 (pre-sleep activities) に関係してこれ (this) を詳細に見ていくこと”が次節で焦点を当てるトピックであることがわかるが、文中には再度、指示代名詞 this が含まれていることから、this の内容を明らかにするため、前文をさらに読み進める必要がある。前文には、In order to see their sleeping habits more clearly, though, how long they actually spent sleeping must also be considered. 「けれども、より明確に睡眠習慣を見ていくために、実際どのくらい睡眠に時間を費やしているのかを考えなければならない」とあり、this の指示内容が“実際どのくらい睡眠に時間を費やしているのか”であることがわかる。段落最後の英文の前文とこの this の指示内容を組み合わせると、“これまで議論された活動 (pre-sleep activities) が【実際どのくらい睡眠に時間を費やしているのか】に関係して詳細に見ていくこと”となり、正解は③「就寝前の活動が、若者が眠る睡眠時間にどのように関係するかの説明」。この問題は、従来とは異なるものの、焦らず取り組めば、2つの指示代名詞 this の内容を明らかにするだけで正解にたどり着ける。2018年度本試で、万が一、傾向が変わった場合には、冷静になって問題に取り組んでほしい。なお、日頃から、どのような内容が次の英文で述べられるかを予測しながら読む習慣を身に付けておくと、この種の問題に対応できる。そのためには、ディスコース・マーカーに着目し、長い英文の内容を頭の中で整理し、論理の流れをつかみながら読むことに心がけたい。その際、英文の内容に関して、why? (なぜそのようなことが言えるの?) とツツコミを入れながら読み進めていく方法もおススメしたい。英文の構成の特徴 (論理の流れ) がわかり、批判的思考力も養える。

第4問Bは、広告や文書を読み取らせる問題である。2007年度から出題されており、必要な情報を速く探し出す力、つまり情報を素早く検索する力が試される問題となっている。なお、これまで第4問Bに出題された内容のテーマを以下に示す。

『センターTen』(ジェイシー教育研究所) のデータを参考に作成

年度	トピック	年度	トピック	年度	トピック
2007本	屋久島エコツアーの広告	2011本	SWIP新聞	2015本	キャンプ場案内
2007追	趣味・関心事に関する案内広告	2011追	オンライン書店の注文ガイド	2015追	ルームシェア募集
2008本	英語サマーキャンプの広告	2012本	ポップグループのコンサート	2016本	美術館に関するウェブサイト
2008追	自作ロボットの広告とクレーム	2012追	寄付募集の案内	2016追	大学のスポーツ施設使用の案内
2009本	病院の問診票	2013本	写真スタジオの広告	2017本	ビデオ制作コンテストの案内
2009追	レシピ紹介サイト	2013追	レストランの開店案内	2017追	マカダミアナッツのウェブサイト広告
2010本	フライト・スケジュール	2014本	マラソン大会の参加要項		
2010追	犬のしつけ教室	2014追	レジャー用品の貸出案内		

第4問Bは、他の読解問題と大きく異なり、先に設問が提示される。早速、問題を見ていきたい。

(2015 年度本試)

次のキャンプ場に関するウェブサイトを読み、次の問いに入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 A man who likes water activities is looking at the website. Which are the campgrounds he is most likely to be interested in?

- ① Apricot and Maple Campgrounds                      ② Maple and Orange Campgrounds  
③ Orange and Stonehill Campgrounds                      ④ Stonehill and Apricot Campgrounds

問2 Two people are making plans to stay in Green National Park for nine nights. They want to enjoy nature, but they need a power supply to use their computers. How much will they have to pay per night for the site they are likely to choose?

- ① \$20                      ② \$24                      ③ \$32                      ④ \$96

問3 A family of four is planning a four-day camping trip with their dog. Their budget for a camp site is under 100 dollars for three nights. Their main interests for the trip are barbecuing and bicycle riding in the national park. Which campground is this family most likely to choose?

- ① Apricot                      ② Maple                      ③ Orange                      ④ Stonehill



The campgrounds in Green National Park are open from April 1 to November 30.

#### Apricot Campground

Walking trails from this campground lead you to the top of Green Mountain. Enjoy the fantastic view from the top. You can also enjoy cycling on the bike trails in the woods.

#### Maple Campground

Maple Campground has direct access to Green River. Have fun doing such activities as fishing, boating, and swimming. You can also enjoy a campfire by the river.

#### Orange Campground

This campground is on Orange Lake, and offers a comfortable outdoor experience. Water skiing is popular on the lake. Other activities include fishing, swimming, and bird-watching.

#### Stonehill Campground

A pine tree forest surrounds Stonehill Campground. The giant pine trees are impressive. You can see a lot of wild animals while riding a bicycle or hiking through the forest.



#### Campground Information

Camp-ground	Site Type (available spaces)	Site Rate/night	Max. People	Max. Stay	Facilities	Restrictions
Apricot	Tents (15)	\$20	4	15 nights	BG	—
Maple	Tents (20)	\$24	5	12 nights	BG PG	—
Orange	Deluxe Cabins (5)	\$96	7	7 nights	K E HS	No pets
Stonehill	Standard Cabins (10)	\$32	6	14 nights	E HS	No fireworks

Site Rate = Rate per site (up to the maximum number of people); Max. = Maximum

K Kitchen, E Electricity, BG Barbecue Grill, HS Hot Shower, PG Playground



正解：問1② 問2③ 問3①

設問が先に提示されていることは、設問を先に読んでから取り組みなさい、というセンター試験作問者からのメッセージである（TOEIC にも類似問題はありますが、設問は後に提示される）。他の読解問題においても、問に目を通すことは当然だが、特に第4問Bは情報検索能力が求められる点、①必要な情報は何か、②その情報はどこにあるのか、を素早く探し出すことが重要となる。ここでは解答時間を短縮できる SKIM（全体を通して重要な情報を拾い読みする）と SCAN（特定の情報を探し読みする）を駆使しながら読み解く方法を紹介したい。

日本語の指示文から、資料が「キャンプ場のウェブサイト」であることがわかる。次に英文の太字の見出し Green National Park Campground Guide を確認する。何に関する資料なのかを把握する（背景を知る）ことは、英文読解をする上では重要である。

問1に目を通すと、「ウォーター・アクティビティが好きそうな人が選ぶキャンプ場はどれか」という問題であることがわかる。ここで SKIM をする。設問の英文では、基本、名詞と動詞、数字を SKIM する。特に設問の英文で用いられる名詞は、本文でその名詞が用いられないということではなく（問自体が成立しなくなるため）、本文でその名詞が用いられている箇所が答えの根拠となるので重要である。一方、動詞は設問の英文で用いられたものが必ず本文で同じ形で出てくるとは限らないので（例えば、問では like を用い、本文では、ほぼ同じ意味を表す be fond of を用いる場合など）注意したい。情報を一目で識別できるよう、名詞には1本線、動詞には波線を引くと良い。問1の設問を SKIM すると、名詞の water activities と the campgrounds がキーワードとなる。資料に目を移し、キーワード検索をする。すると、キーワードを含んだ名詞 Apricot Campground, Maple Campground, Orange Campground, Stonehill Campground が目に入る。ここに答えの根拠があると見当が付く。次に、設問の文にあった “water activities が好きな人である” という情報を手掛かりに、本文の該当箇所である (Apricot Campground, Maple Campground, Orange Campground, Stonehill Campground) の SCAN を始める (SCAN は SKIM の過程で得たキーワードを手掛かりに行われるため、解法の手順は SKIM→SCAN となる)。すると、Maple Campground と Orange Campground の説明文に、fishing, boating, swimming, water skiing といった、キーワード water activities に関するものが含まれていることがわかり、正解は②となる。

問2の設問を SKIM すると、数字の nine nights (宿泊数)、名詞の nature (楽しみたいもの)、power supply (必要なもの) がキーワードとなり、金額（一晩あたり）を答えさせる問題であることがわかる。資料に目を移し、金額が示されている該当箇所 (Campground Information) の SCAN を始める。電気のあるキャンプ場を表す [E] の印が付いているのは、Orange と Stonehill のみで、その中でも、キーワードの nine nights 「9泊」の条件に当てはまるのは、Max. Stay 「最大宿泊数」の欄に 14 nights と記載されている Stonehill のみである。Stonehill の金額欄には \$32 とあることから、正解は③となる。

問3の設問を SKIM すると、数字の four (家族の人数)、four-day (旅行の日数)、100 dollars for three nights (予算)、名詞の dog (同伴のペット)、barbecuing and bicycle riding (興味) がキーワードとなり、この家族が選びそうなキャンプ場を答えさせる問題であることがわかる。SKIM で得たキーワードを頭に入れ、該当箇所 (Campground Information) の SCAN をする。バーベキューができる施設を表す [BG] の印が付いているのは、Apricot と Maple であることから、Orange と Stonehill が消去できる。最大収容数、最大宿泊数、予算、ペットの同伴については、2つのキャンプ場 (Apricot と Maple) が条

件を満たしていることがわかり、残った bicycle riding ができるキャンプ場という条件を満たしているかがポイントになる。Campground Information には、キーワード bicycle riding に関する記載がないことから、Apricot Campground、Maple Campground の案内説明に目を移す。bicycle riding というキーワードを手掛かりに、それぞれの案内説明の中を SCAN（キーワード検索）する。Apricot Campground の案内説明に cycling on the bike という表現があり、Maple Campground の案内説明には、それに該当する表現がないことから、正解は①となる。

第4問Bは、計算をさせる問題が出題することも特徴の1つである。2017年度本試では出題されなかったといって油断はできない。なぜなら、これまで何度か出題されていることに加えて、2017年度追試でも出題されているからである。2017年度追試の問題（一部抜粋）を使って見ていきたい。

(2017年度追試)

次のページのマカダミアナッツのオンラインショップに関するウェブサイトを読み、次の問いに入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

A customer living in Australia wants to have some macadamia nuts delivered to her house. She cannot eat spicy food at all. Her total budget is 20 dollars. Which would she most likely order?

- ① Two bags of Honey Roasted Nuts
- ② Two packs of Curry Salted Nuts
- ③ Two packs of Natural Raw Nuts
- ④ Two tins of Natural Raw Nuts

### Online Delivery Order Form:

Prices current from January 1, 2017 (Tax included)

	Weight	Natural Raw Nuts		Curry Salted Nuts		Honey Roasted Nuts	
Pack	100 g	\$4.00	<input type="text" value="0"/>	\$5.00	<input type="text" value="0"/>	\$6.00	<input type="text" value="0"/>
Bag	150 g	\$6.00	<input type="text" value="0"/>	\$7.50	<input type="text" value="0"/>	\$9.00	<input type="text" value="0"/>
Tin	200 g	\$8.00	<input type="text" value="0"/>	\$10.00	<input type="text" value="0"/>	\$12.00	<input type="text" value="0"/>

Click  to enter your details.

Delivery takes 2-5 working days with a shipping/handling charge of \$ 10.00.

International shipping: For specific shipping charges and expected shipping times,

email us or phone during business hours (9:00—17:00 Australian Eastern Standard Time).

Email: tarrigunfarmland@tarrigun.com.au Tel: 212—555—0121

正解：③

設問から得られる情報は、①オーストラリア在住の女性で、自宅にマカダミアナッツの配達を希望している、②辛いものが食べられない、③予算は20ドル、の3つである。この時点で、もし設問を SKIM

した際、キーワードの名詞 **spicy food** に着目していれば、女性客は辛いものが食べられないことがわかり、**spicy food** であるカレーソルテッドの選択肢②が最初に消去できる。次に、女性客は配達を希望していることから、**Delivery**（配達）と書かれた表下の英文を **SCAN** したい。すると、配達料と手数料(**a shipping/handling charge**)が 10 ドルであることがわかる。ここから、女性客の予算 20 ドルから、これら（配達料と手数料）を引いた 10 ドルで購入できるものに正解を絞ることができる。選択肢①は 18 ドル、選択肢③は 8 ドル、選択肢④は 16 ドルであることから、10 ドル以下で購入できる唯一の選択肢③が正解と判断できる。

このように、第 4 問 B を短時間で解答するためには、全ての文を熟読するのではなく、**SKIM** と **SCAN** を駆使しながらメリハリを付け、どこに何が書いてあるのか、全体を見る目（マクロ的視点）と、キーワードを手掛かりに、細部を見る目（ミクロ的視点）、両方の目を持つことが必要である。なお、内容一致・内容不一致問題が出題されることもあり、年度によっては、3 問中 2 問を内容一致・内容不一致問題で占められることもある。特に本文の内容に合わないものを選ばせる内容不一致問題は正解率が低い傾向にある（例えば 2014 年度本試は 33.6%）。

## 第 5 問

第 5 問は物語文の長文読解問題である。2007 年度まで出題されていた物語文問題は、2008 年度からはヴィジュアル問題へと、2015 年度本試はメール・手紙文問題へと変わった経緯がある。2015 年度の追試から物語文問題が復活し、2017 年度（本試・追試）も継続して出題されていることから、今後も引き続き出題される可能性が高い。なお、第 5 問は、特に受験生の学力層によって差が付きやすい傾向にある。場面描写(**setting**)をしっかりと捉え、読者の主観的な思い込み（時に妄想！？）によって誤読しないよう、本文に書かれている事実のみを基に、客観的かつ正確に読み解くことが重要となる。第 5 問以降の長文読解問題は、たった 1 問（各 6 点）で第 1 問から第 2 問 A（各 2 点）までの 3 問分に相当するので、1 問 1 問を大切に得点していきたい。ちなみに、2014 年度まで第 3 問 A で出題されていた意味類推問題は、2015 年度では第 5 問、第 6 問で、2016 年度本試では第 6 問で出題された。特に 2016 年度本試では、語彙ではなく、文の意味を類推させる問題が出題され、多少の変化が見られたが、2016 年度追試は従来に似た、語彙を類推させる問題が第 5 問の物語文で出題されている。なお、2017 年度本試は文の意味を類推させる問題が出題された。一方で、2017 年度追試では、類推問題は出題されなかったことを踏まえると、第 5 問は多少の変化があると予想しておいた方がよい。

第 5 問の攻略方法としては、第 4 問に引き続き、ミクロ的視点とマクロ的視点をういた読解が有効となる。5W1H に着目し、物語の展開の詳細を把握するミクロ的視点と、全体を通して描かれる、登場人物の心情変化を捉えるマクロ的視点を駆使しながら読み進めたい。手順として、まずは設問に目を通し、英文の名詞（主語にならないものなども含め）と動詞（本文では別の表現で言い換えられている可能性があることを念頭に）を **SKIM** し、問われている内容を把握する。次に本文へと移り、それらに該当する箇所（答えの根拠）が本文に出てきたら、それを **SCAN** して問題を解く。なお、物語文は長文であるため、本文全てを読み終えた後に問題を解くと、どこに何が書いてあったのかわからなくなり、内容の詳細も忘れてしまう（記憶が曖昧になる）ことがあるので、本文を読みながら問題を解くようにしたい。こうすることによって、答えの根拠を探すために本文を何度も読み返す必要がなくなり、また、該当箇所を読んだ直後に問題を解くことで、より正確に内容を把握した状態で問題に取り組むことができる。

設問に対する答えの根拠は、設問の順に本文中に出てくることがセンター試験では多いので、上記の読解法がさらに生かされる。なお、時間が余った際、見直しがすぐにできるよう、答えの根拠とした箇所には下線などを引き、設問番号も記しておくといい。それでは、2016年度追試の問題（一部抜粋）を用いながら解法を確認していきたい。

(2016 年度追試)

次の物語を読み、下の問いに入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

Tomorrow would be the last day of my dream trip. In the spring, I had started on a 3,500-kilometer hike. Now, as the leaves were changing color and with 10 kilometers left, I was about to fulfill my dream of hiking the Rainbow Trail.

While I relaxed by my campfire, various thoughts went through my mind. I laughed softly at myself as I remembered the first tiring day. When I started out that day, it did not take me long to realize how foolish I was; I had packed too much. I was carrying almost 30 kilograms, and it was killing me. At my first stop, I took out a lot of canned goods, books, and other heavy things. From then on, with my load lighter, I was able to make good time.

I had decided to do this long hike after quitting my job in the city. I really liked my job, but I had been working 80 hours a week and traveling a lot on business. It seemed I was only working, and there was no other meaning to my life. Finally, it all had become too much. I decided to take some extended time off.

問 1 The author laughed when he remembered the first day because he .

- ① felt it was the happiest day for him
- ② had known very little about hiking
- ③ had met many interesting people
- ④ spent that day in front of the fire

問 2 The author decided to take a long hike because he .

- ① could stop at small towns along the way
- ② lost his well-paid job in the city
- ③ wanted to stop and think about his life
- ④ dedicated to spending time in nature

正解：問 1 ② 問 2 ③

問 1 は、初日を思い出した時に筆者が笑った理由が問われていることがわかる。設問を **SKIM** した際に得たキーワード、動詞 **laughed** や **remembered**、名詞 **the first day** を手掛かりに読んでいくと（キーワード検索）、それらのキーワードが 2 段落目の 1 行目から 2 行目に出てくことに気付く。よって、この先の文を **SCAN** すれば答えの根拠にたどり着けると予測する。なお、直後の主節 **it did not take me**

long to realize how foolish I was「自分がどれほど愚かであったかに気付くにはそれほど時間がかからなかった」を読んだ時点で、筆者が笑った理由がわからなくても心配する必要はない。評論文と同様、物語文も抽象から具体へと展開されることが多いからである。つまり、読んでいて？(疑問)に思った後、!

(謎の解明)が続くということである(物語文においても、「なぜ?」とツッコミを入れながら読むと良い)。あえて先に、抽象的な内容を提示することによって、読者に推測(時に推理)させ、興味付けさせた後に具体化する、“伏線”(Foreshadowing)という手法の一種でもある(ちなみに、文学用語で言う“伏線”とは、ある表現を予め提示しておいて、後にそれが理解できるようにする手法のこと)。よって、後続の文がさらに具体化する可能性があるると予測し、読み進めると良い。すると、後ろにセミコロン(;)があることに気付く(セミコロンは、具体化を示すディスコース・マーカーである)。読み続けていくと、“たくさん荷造りし過ぎて(およそ 30kg も運んでいた)、死にそうだった”こと、その後、“重いものは取り除き、軽くしたことによって早く着いた”ことが述べられている。初日の非効率的な行為(荷物の詰め過ぎ)から、著者はハイキングに不慣れであったことがわかり、その非効率的な行為は、ハイキングに関する知識のなさに起因すると考えられることから、正解は②となる。

問2は、長いハイキングに著者が出かける決心をした理由が問われていることがわかる。設問を SKIM した際に得たキーワード、動詞 **decided** と名詞 **long hike** を手掛かりに読んでいくと(キーワード検索)、それらのキーワードが3段落の冒頭に出てくことに気付く。よって、この先の文を SCAN すれば設問2の答えの根拠にたどり着けると予測する。続けて読み進めていくと、都会での仕事を辞めてハイキングに出かけていることがわかる。さらに後ろを読み続けると、都会での仕事は好きだったが、1週間に80時間も働いていたことなど、多大なる負担の下、自分は働いているだけのようになり、自分の人生にとって意味が他になかったと述べられている。ここから、長いハイキングに著者が出かける決心をした理由は、仕事で多忙な日常生活を送る中で、人生の意味が見い出せずにいたため、仕事を辞め、長い休みを取って、自分の人生について立ち止まって考えてみたかったためと判断ができ、正解は③となる。

このように、SKIM と SCAN を駆使すれば、読みながら、速く、しかも正確に、設問を順番に解くことができる。何度も本文に戻りながら問題を解くことで、時間を浪費することがないようにしたい。なお、いくら長文問題をたくさん解いても、確立した方法ではなく、“文脈”と言う名の自分の“勘”を頼りに解いては、いつまでたっても読解力は伸びず、長文の正解率も安定しない。質の良い勉強法で、多くの英文の量に触れる、つまり、質と量のバランスを保つことが、効率よく読解力を身に付けられる秘訣である。

## 第6問

第6問は論説文の長文読解問題である。Aの内容一致問題とBの段落要旨問題(Bの問題は完答形式)に分かれている。2014年度まで第3問Aで出題されていた語彙の意味類推問題が、2015年度本試では、第5問と第6問の長文の中で出題されるようになった(追試では第6問のみ)。2016年度本試では、語彙の意味類推問題が、発言の意図を把握する力を求める、文の意味類推問題へと変わり(ただし、2016年度追試では、2015年度本試と同様、5問と第6問の設問の中に語彙の意味類推問題が出題されている)、第6問で出題されている。最新の2017年度では、本試で語彙の意味類推が出題されたが、追試では類推問題は出題されていない。なお、語彙の意味類推問題は、2007年度から出題されて以降、2014年度までは第3問で出題されていたので、苦手とする生徒はこれらの年度の第3問を解いて基礎力を養うと良

い。実は過去に、第 3 問で出題されていた語彙の意味類推問題が数年後、第 5 問の長文の中で再び同じ語彙が出題された経緯がある。

(2010 年度本試)

第 3 問

Over there is Mrs. Ferret, as usual in vintage jeans. She has more pairs of vintage jeans than anyone I know. Every time I see her, she's wearing a different pair. She really does seem to have a penchant for vintage jeans.

In this passage, have a penchant for means .

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| ① be careful of | ② be doubtful of |
| ③ be fond of    | ④ be proud of    |

正解：③

(2015 年度本試)

第 5 問

She's getting good grades and likes her classes and teachers. In particular, she has a penchant for numbers and loves her math class. She often talks about your fun English class, too. However, after almost half a year, it doesn't seem like she's made any friends. Last week, she said that she usually reads by herself during breaks between classes while other girls are hanging out and chatting. Anna also mentioned that she walks to school alone every day. This is very different from how she was in the US.

The phrase has a penchant for in the second paragraph of Mr. Whitmore's email is closest in meaning to .

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| ① is collecting | ② is exchanging   |
| ③ is fond of    | ④ is unsure about |

正解：③

上記 2 つの問題は、共に **have a penchant for**（大好きである）の意味を類推させる問題である。2015 年度に受験した生徒の中で、2010 年度本試第 3 問を解いて覚えていたら、すぐに解答できただろう。

ちなみに、第 6 問は、2007 年度まで出題されていた物語文から 2008 年度より論説文へと変わったという経緯がある。段落要旨問題に関しては、2011 年度は段落の要旨を並べ替えさせるものであったが、2012 年度から段落の要旨を選択させる問題になっている。なお、2015 年度では、段落要旨のタイトルが示されていたが、2016 年度の本試と追試では示されておらず、段落のタイトルを問う問題が設けられていた。このように、大小の変更が行われてきたというのが、これまでの第 6 問の特徴とも言える。どのような形式に変わろうと、対応できる力を身に付けておくことが必要である。それでは 2016 年度追試（一部抜粋・改変）の問題を使って解法を示していきたい。

次の文章を読み、下の問い (A・B) に答えよ。なお、文章の左にある(1)～(3)はパラグラフ (段落) の番号を表している。

- (1) Did you know that reading good novels may improve your ability to handle social and business situations such as job interviews? Recent scientific research has shown that people who read novels are better able to read an interviewer's body language and figure out what they are thinking or feeling. People who read literary works also have greater emotional awareness and superior social skills.
- (2) Researchers have investigated the reasons why reading literature has this impact. They found that in literary fiction more work is left to the imagination. Therefore, the reader has to try harder to understand subtle points and complexities of the characters' thoughts. More effort is required to understand each character's behavior and be sensitive to small hints of emotion. Through reading literature readers learn to empathize with people and view the world from another person's perspective. When observing people, they become more skilled at interpreting gestures and facial expressions.
- (3) One research experiment, called "Reading the Mind in the Eyes," has provided strong evidence that reading novels, even for a few minutes, greatly affects our ability to detect emotion in other people. In this experiment, two groups of participants looked at 36 photographs of pairs of eyes and chose in each case one word from a set of four which, in their judgment, best fitted the emotion shown. Those who had read a novel beforehand scored significantly better than the other group which had not. The results of this experiment were exciting because they suggested a direct connection between reading novels, even for a short time, and the perception of other people's feelings.

A 次の問いに入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問 1 The word empathize in paragraph (2) is closest in meaning to .

- ① copy a character's behavior      ② feel what others are feeling  
③ question others' thoughts      ④ state your opinion strongly

問 2 What did the experiment described in paragraph (3) show? .

- ① Fiction readers can identify emotions well      ② Participants' emotions change over time.  
③ The mind can influence how we see.      ④ There are limits to reading literature.



B 次の表は、本文のパラグラフ（段落）ごとの内容をまとめたものである。(2)～(3)の  に入れるのに最も適当なものを、下の①～④のうちから一つずつ選び、表を完成させよ。ただし、同じものを繰り返し選んではいけない。

Paragraph	Content
(1)	Introducing the topic
(2)	<input type="text"/>
(3)	<input type="text"/>

- ① An experiment looking at the effects of reading
- ② How readers must work hard to comprehend fiction
- ③ How the brain treats fictional situations as real
- ④ Taking a fresh look at past brain research

正解：A 問 1② 問 2① B(2)② (3)①

第 6 問が A（内容一致問題）と B（段落要旨問題）に分かれている場合、A を全て解き終えてから B の問題に取り掛かると、再度、本文を読み直す必要があるの、A の問題と B の問題を並行して解くようにしたい。なお、A の内容一致問題は、設問の順番に本文中に答えとなる根拠が出てくることから、第 5 問の解法と同じように、本文を読みながら、設問を順に解いていくことになる（第 6 問 A は、答えの根拠がどの段落にあるのか、明白なので、設問に対応する段落を読む直前に、設問の英文を **SKIM** して本文へ読み進めればよい。A の全ての設問を **SKIM** してから本文を読むと、かえって非効率である）。その際、論理展開を把握しながら読み解けるよう、記号を使って読み進めていく習慣付けをしておきたい。例えば、換言・要約・具体化は＝、並列・追加・列挙は＋、逆接・対比は⇔、因果関係は→、のように記しておくことで展開を整理できる。なお、今回の問題のような調査研究論文では、①調査研究者の主張（仮説）、②調査研究の目的、③調査研究の手法、④調査研究の結果、⑤調査研究結果の考察、の順に展開されることが多い。本文の第 1 段落の冒頭を見てみたい。Did you know that reading good novels may improve your ability to handle social and business situations such as job interviews?とある。読者に対して「優れた小説を読むと、就職面接のような、社会的な仕事の場面に対応できる能力を向上させられる可能性があるということをあなたはご存知でしたか？」と、もちろん聞いているのではない（特に論説文では、疑問文を問題提起として用いることが多いので、その含意を理解したい）。導入文として、“（読者の方はご存じなかったと思うが）実は小説を読むと、そういった適応能力が向上するという効果がある（よって、それをこれから示していきたい）”という、調査研究者の主張である。

では、A 問 1 を解いていきたい。語彙の意味を類推させる問題である。センター試験作問者は、受験生にとって未知の語彙であることを前提に出題しているので、意味がわからないからと言って焦ることはない。裏を返せば、下線部以外の文意から下線部の語彙は類推できるということである。当然、下線部の語彙は、受験生の多くは知らないもので、難しい抽象的な意味を含んでいることが考えられる。抽象的な内容は、後ろで具体的に換言されるのが英文読解の原則である。そこで後ろの文を見てみると、

view the world from another person's perspective「他の人の視点から世界を見る」とある。他者の視点で物事を見るということは、他者の立場になって物事を考えられるということでもある事から、正解は「他者が感じていることを（自分でも）感じる」を意味する②となる。なお、empathize withは「～に共感する」という意味である。語彙の意味類推問題は、正解と思われる選択肢を下線部に代入して必ず文意が通るかどうかを確かめたい。

A 問 1 を解き、2 段落を読み終えた後は、B(2)の問題を解きたい。段落要旨問題であることから、2 段落の重要な内容が述べられている箇所が答えの根拠になる。ここでは、時に有効な消去法を使った解法を紹介したい。選択肢③と④に目をやると、それぞれの選択肢の英文の中に、名詞 brain というキーワードが共通して用いられていることがわかる。しかし、2 段落では脳に関する内容やその説明が一切なかったこと（名詞 brain という単語そのものも、2 段落中では出てこない）から、この 2 つの選択肢は消去できる（着眼点によっては、1 度に 2 つの選択肢を消去できるため、正解の確率を 4 分の 1 から 2 分の 1 へと大幅に上げられる）。選択肢①は、“読書による効果を考察する実験”とあるが、選択肢で用いられている、名詞 experiment「実験」に関する言及は 2 段落にはない（名詞 experiment という単語そのものも、2 段落中では出てこない）。よって、正解は②となる。答えの根拠となる箇所は、本文に目を向けると、因果関係を表すディスコース・マーカーTherefore の後ろの英文にあると考えられる（「因果」を表すディスコース・マーカーの後ろには、重要な情報が置かれることが多いことを思い出したい）。ここで、正解の選択肢②の英文と、その答えの根拠となる本文の英文を見比べたい。

#### 本 文

the reader has to try harder to understand subtle points and complexities of the characters' thoughts

#### 選択肢

How readers must work hard to comprehend fiction

見かけは異なるが、内容はほぼ同じであることに気付く。このように、正解の選択肢の英文と、答えの根拠となる本文中の英文を比べると、センター試験の作問者が、正解の選択肢を不正解に見せるために、どのように細工を施してくるのかを垣間見ることができる。例えば、本文の英文では、（準）助動詞 has to や動詞 understand が使われていたのが、選択肢の英文では、ほぼ同じ意味を持つ助動詞 must や動詞 comprehend という単語に代えられていることがわかる。また、本文の英文 subtle points and complexities of the characters' thoughts「登場人物が持っている考えの細部や複雑性」といった小説の属性を、選択肢の英文では、fiction「フィクション」という単語で包括的に言い換えている。センター試験の問題が作問者によって、どのように作られているのかを知っていれば、迷った時など、役に立つこともあるであろう。

次に A 問 2 を解いていきたい。設問の英文を SKIM すると、3 段落で述べられた実験に関する内容一致問題であることがわかる。主題文が置かれることの多い冒頭（3 段落）を読んでもみると、Reading the Mind in the Eyes と呼ばれる研究実験によって、たとえ数分でも小説を読めば、他人の感情を感知する能力に大きな影響があるという、有力な根拠が示されたことが述べられている。ここで選択肢を見てみると、「フィクションを読む人は、感情を上手く読み取れる」を意味する選択肢①と、3 段落の冒頭の内容が同じであることに気付く。よって、正解は①。本文では reading novels, detect emotion in other

people, 選択肢の英文では Fiction readers, identify emotions のように、多くの表現が換言されていることに注意したい。答えの根拠となる本文の英文と、正解となる選択肢の英文を見比べて、再度、どのようにセンター試験が細工を施して、正解を不正解のように見せかけてくるのか、その言い換えのパターンをつかむために確認をすると良い（下記の英文を使って、同じ内容を言い換えた表現に下線を引いて確認したい）。

#### 本 文

One research experiment, called “Reading the Mind in the Eyes,” has provided strong evidence that reading novels, even for a few minutes, greatly affects our ability to detect emotion in other people.

#### 選択肢

Fiction readers can identify emotions well.

A 問 2 を解き、3 段落を読み終えた後は、B(3)の問題に移りたい。なお、B(3)のように、A 問題と同じ段落に関するものであれば、A 問題の正解の選択肢を参考に段落要旨問題 B を考えると良い。

段落要旨問題であることから、3 段落の重要な内容が述べられている箇所が答えの根拠になる。(2)と同様、brain「脳」というキーワードを手掛かりに 3 段落の本文を SCAN しても、キーワードの検出はなく、また、脳に関する内容やその説明に相当する英文がないことから、③と④の選択肢は消去でき、自動的に正解は①となる。①の選択肢の英文の中には、名詞 experiment が使われており、3 段落においてもこの名詞が出てくることに気付く。なお、3 段落は、最後の文でもう一度、冒頭で示された調査結果を述べていることにも気付きたい。

#### 最初の文

One research experiment, called “Reading the Mind in the Eyes,” has provided strong evidence that reading novels, even for a few minutes, greatly affects our ability to detect emotion in other people.

#### 最後の文

The results of this experiment were exciting because they suggested a direct connection between reading novels, even for a short time, and the perception of other people’s feelings.

“重要な情報（内容）は繰り返される”という原則から、この内容が 3 段落の要旨であることがわかり、正解が①であることが確認できる。

次にタイトル選択問題を見てみたい。タイトルは、言うまでもなく、本文の主旨を凝縮して簡潔に表現したものである。本文の主旨に関しては、英文では最初の段落と最後の段落に記述されることが多いので、それを意識しながら取り組むと良い。最初の段落に書かれる理由としては、主旨を最初に提示した方が本文を読者が読み進めていきやすいからである。いわゆる、スキーマの構築である。次に、最終段落に書かれる理由としては、長い本文を読み進めた後、最後にもう一度、主旨を読者に思い出させることによって、本文の中盤などで述べられてきた様々な内容が有機的に繋がり、整理されることによって記憶に留めやすいという効果があるからである。次の問題は、2017 年度追試を一部抜粋・改変したものである。

次の文章を読み、下の問いに答えよ。なお、文章の左はパラグラフ（段落）の番号を表している。

- (1) Many business make regular contributions to charity. Recently, though, some large companies have started what are called “social businesses.” They engage in activities such as providing clean water or reusable energy facilities for the community, or providing food and housing for the poor, without expecting to earn a lot of money. In some ways, the actions of social businesses are similar to, but not exactly the same as, what charities have been doing. In order to understand social businesses more deeply, it is useful to take a look at the history of charity.

(中略)

- (6) This historical overview shows us how charitable activities have evolved along with society. These changes have included changes in who provides the assistance and what types of assistance are given. Business has also evolved and changed over time. Now, social businesses, with their heightened sense of social responsibility, are performing charitable activities such as providing poor people in local communities with food, housing, and services. They even employ people living in those areas and pay them decent wages. It goes without saying that, as a business, they must make some profit. However, that is not their sole purpose. They must also meet their social responsibilities.

What would be the best title for this passage?

- ① Challenges for Churches                      ② Helping People Through the Ages  
③ Personal Approaches to Charity              ④ Religious Beliefs and Helping People

正解：②

1 段落の最後に it is useful to take a look at the history of charity 「慈善活動の歴史を見てみることは有用である」、とあり、6 段落（最終段落）の冒頭には This historical overview shows us how charitable activities have evolved along with society 「これまで見てきた歴史的な概略は、我々に慈善活動がどのように社会と共に発展してきたかを示しています」とあることから、本文は慈善活動の歴史について述べられていることが推測できる。それぞれの文には、charity や charitable activities, history や historical という単語が用いられており、これに対応する英語が選択肢②の中にある Helping People（人々を助けること）と Through the Ages（長年にわたって）であることに気が付けば、選択肢②がタイトルとしてふさわしいことがわかる。①や④のように、宗教的な事柄を問題にしたタイトルであれば趣旨が書かれることが多い最初の段落か最終段落で記述されているはずだが、その記述内容がないので不正解となる（実際には、省略した 2 段落で宗教的な内容の記述はあるが、教会の Challenges（難題）については触れられていない）。なお、選択肢③については、本文では述べられていないので、消去できる。

## おわりに

センター試験を終えた受験生が毎年、英語の筆記試験に関して口にするのが、「時間が足りなかった」という類のものである。つまり、センター試験は、問題そのものが難しいというよりも、タイム・マネージメントの方が難しいと感じる受験生が多いということである。ちなみに、試験終了後は、受験生ならば、どうしても平均点予想を気にしてしまうかもしれないが、予備校などが発表する、直後の平均点予想はあまり当てにはならないということを述べておきたい。一例をあげると、大学入試センター試験速報で、2017年度英語（筆記）の予想平均点をベネッセ・駿台データネットは122点（2017年1月15日発表）、124点（2017年1月17日更新）、河合塾は125点（2017年1月15日発表）、126.7点（2017年1月19日更新）としていたが、センターが公表した実際の平均点は123.73点であり、予想平均点と比べると、3点もの差があったものもある。

では話を戻して、いったいどうすれば、時間との勝負に打ち勝てるのかを考えてみたい。「長文で時間がかかるから、速読の練習をする」といったような、安易な考えではいけない。確かに、ある程度の速読力は必要であるが、ただひたすら速く読めば良いというものではない。きちんとした方略（情報構造に着目し、SKIMとSCANを駆使しながら読むなど）を持って挑まなくてはならない。ここでは、より具体的に、制限時間内に全ての問題が解ける方法を示したい。まずは、①時間配分を予め決めておく、②知識問題でテンポよく解く、③読解法を駆使する、この3つを押さえておきたい。時間配分については、以下を目安に、日頃から時間を計って問題を解き、ペースを身に付けておくことが必要である。

2017年度の問題を参考に作成

	問題確認	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	第6問	見直し	合計
大問あたり	2分	3分	10分	17分	13分	10分	20分	5分	
1問あたり		約20秒	A: 30秒 B: 40秒 C: 60秒	A: 60秒 B: 120秒 C: 180秒	A: 120秒 B: 100秒	120秒	130秒		80分
分類		知識問題		読解問題					
配点		14点	44点	41点	35点	30点	36点		200点



発音・アクセント、文法・語法、語彙問題は、知識が問われていることから、その知識がなければ、いくら時間をかけても解くことはできない。また、知識問題の第1問・第2問に時間をかけすぎると、配点が高い読解問題をじっくりと解く時間がなくなり、最悪の場合、時間が足りず、最後の読解問題が解けないまま解答用紙を提出することにも繋がるので注意したい。よって、知識問題では、できるだけ速く問題を解き、その分、配点の高い読解問題に時間を割けられるようにしたい。反対に、配点が高い読解問題は、思考力などが問われるため、本書で述べた読解法を用いて、じっくりと、効率よく解いていきたい。なお、最後に見直しの時間を5分設けているが、余裕を持っておくためのものである。例えば、上記で示した時間配分通りに問題が解けなかった場合など、不測の事態のための時間調整や解答の見直し（マークミスがないかどうかの確認なども含む）のための時間である。

試験開始直後の2分は、全体を通して問題形式の変更がないかを確認したい。問題を解いている最中に、形式が変わった予想外の問題に出くわし、動揺しながら問題を解くよりも、もし問題形式の変更があった場合には、予め心の準備をしておいた方が良いでしょう。なお、問題形式の変更があるかどうか

を予想するには、追試問題が参考になる（新しい形式の問題は、追試で実験的に出題する傾向にある）。その理由として、受験者数も少なく、影響があまり大きくないからだと考えられる。不思議なことに、本試験の問題とは異なり、追試験の問題は、すぐには公表されない（受験者数などの受験状況や正解については、すぐに公表されるが）。そのため、過去問題集に最新の追試問題は収録されることが少ない。近年では、例えば第2問Cの応答文完成問題が、2014年度の追試から、第5問の物語文読解問題が、2015年度の追試から新たな形式として出題され、次年度以降も継続して出題されている。なお、2015年度と2016年度において、小さな変更もあった。それは第6問Bに関して、2015年度（本試・追試）は、段落要旨のタイトルが新たに示されていたが、2016年度（本試・追試）ではそれは示されず、従来のもの（段落要旨のタイトルがない形式）へと戻った。センター試験問題作成部会の方針には、「過去の試験問題評価委員会報告書において要望や批判があった事項について、出題の形式、内容の改善を図る」というものがある。実は、2015年度の第6問Bに対して、試験問題評価委員会の1つ、全国英語教育研究団体連合会から、「選択肢を読むだけで本文のテーマを容易に把握することが可能なため、真に彼らの読解力を測ることができたのか疑問が残る（『平成27年度試験問題評価委員会報告書（本試験）』p.405）」という指摘があった。この指摘を受けて、センター試験問題作成部会は、次年度から指摘を受けた箇所については修正したと考えられる（問題作成部会の見解としては、「より本物らしいリーディングの状況を創出する目的で、英文のタイトルを付した」とある『平成27年度試験問題評価委員会報告書（本試験）』p.411）。問題作成部会は、平成27年度より、平成21年度告示高等学校学習指導要領への移行を念頭に、従来の形式を踏襲しつつ、部分的に新傾向問題の導入を図っていると思われる。約20年前の問題と比べると、会話問題そのものの数が少なくなり、2015年度追試からは物語文の読解問題の復活もあり、一見すると、コミュニケーション能力の達成度を測るための試験とは別の方向へと進んでいるように思われるが、実は、会話文を通した問題（具体的には、第2問B、C、第3問A、C）の比率は25%（50点分）と、全体の4分の1を占め、会話の内容が理解できるだけでなく、発言の意図などを把握する力、つまり会話力の先にある、真のコミュニケーション能力が求められる問題へと変わりつつある（例えば2017年度の語句整序問題は、会話文の中で出題されているが、約20年前の1996年度の語句整序では、会話文の中で出題された問題は1つもない）。それに加え、20年前と比べ、語彙数もかなり増加している。ちなみに、センター試験は以下の方針を基に、コミュニケーション能力を測れる問題を作成するための工夫を行っている。

語彙、語法、慣用句、文法、表現に関する知識だけでなく、社会言語的側面、談話的側面、方略的側面を含め言語運用能力を総合的・多角的に測る。また、情報を整理し、統合し、批判的に考え、思考する力を測る工夫をする。

（『平成29年度試験問題評価委員会報告書（本試験）』p.286）

Canale, M., & Swain, M. (1980) Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied linguistics*, 1, 1-47.では、コミュニケーション能力を①文法能力、②談話能力、③社会言語学的能力、④方略的能力から成る能力と定義している。問題作成部会の方針と酷似していることから、コミュニケーション能力について様々な定義が学説では存在する中、問題作成部会はCanale, M., & Swain, M. (1980)の定義に照らし合わせ問題を作成していると推測できる。

けれども、質と量、共に 20 年前とは著しく変化してきた中、約 10 年前まで出題されていた物語文の読解問題が復活したことは、少し驚きかもしれない。これには 2 つ理由があろう。1 つは、試験問題評価委員会の 1 つ、高等学校教科担当教員から、「説明文、物語文、会話文等、様々な種類の文章をバランス良く出題していただきたい」という意見が出されていたこと。2 つ目は、外部試験との差別化である。例えば、2017 年度追試では、文の意味類推問題と語彙の意味類推問題が姿を消したのは驚きである。2014 年度までは第 3 問 A で出題されていたが、2015 年度からは長文の中で出題されるようになり、実践的な場面をより忠実に再現した問題に変更され、外部の評価は良かったが、2017 年度追試問題では不思議と出題されなかった。その理由として、考えられるのはやはり作成部会が外部試験との差別化を意識したことであろう。TOEIC においては、センター試験と同様、長文問題である PART 7 で意味類推問題が出題されている。

なお、センター試験問題作成部会は、今後の問題作成に当たっての留意点又はまとめとして、以下のように述べている。

あくまでも日本の高等学校段階における英語学習の達成度の判定を狙いとしていることからすれば、海外留学 (TOEFL, IELTS) あるいは国際ビジネス (TOEIC) を念頭においた国際標準の試験とは目的が異なる。また、センター試験問題が受験日の翌日に新聞等で全て公開され、教育関係者のみならず一般国民の目に広く触れることも特徴的である。したがって、本試験は競争的試験として他に類を見ない特殊性・公開性の下に行われているものと言えよう。

(『平成 29 年度試験問題評価委員会報告書 (本試験)』 p.357)

コミュニケーション能力を測る試験という観点から、センター試験は否応なしに外部試験に類似する問題形式を取らざるをえないが、物語文の読解問題を出題することで、何とか外部試験との差別化を図りたいとする態度が見え隠れする。このような理由から、おそらく、2015 年度追試から復活した物語文の読解問題は、今後も継続して出題されるであろう。継続して出題が予想される問題としては他に、第 3 問 C を忘れてはいけない。センター試験を分析した書籍等では、昨年と比べ変更はなかったとしているが、第 3 問 C は形式こそ変わっていないが、問われている内容が複雑化されていた。要約問題として、2016 年度までは 1 人の発言者の主旨を把握すれば解くこともできたが、2017 年度からは 2 人あるいは発言者全員の要約を求められる問題が出題されていたことに留意したい。要約問題が複雑化した背景には、近年、教育現場に導入されつつあるアクティブ・ラーニングの影響と思われる。

平成 29 年度試験問題評価委員会報告書の中で、全国英語教育団体連合会は、第 2 問 A に関して、問 1~7 の 1 カ所の空欄に対する配点と問 8~10 の 2 カ所の空欄に対する配点が同一であることを問題視しているほか、第 2 問 C に関して A と B で文法的な力を測る問がすでに出題されていることから、形式は維持するとしても文法、語法を問う問題から脱却した問題にするべきであるという意見が述べられている。特に 2 つ目の指摘は今後見直される可能性も高く、文法・語法ではなく、談話能力を測る問題、つまり、対話の内容に即した問題のみに変更されるかもしれないので注意が必要である。

最後に、本試験とは異なり、不思議と翌日に (翌月にも) 公開されることのない (公開性の下に行われていない) 追試験 (2017 年度) の問題と解答を付しておく。赤本や黒本にも収録されていないが、次年度の傾向をつかむ際、参考にすると役立つであろう。



## 2017 年度（追試）

### センター試験 英語（筆記）

第 1 問 次の問い（A・B）に答えよ。（配点 14）

**A** 次の問い（問 1～3）において、下線部の発音がほかの三つと異なるものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問 1

- ① borrow ② crowd ③ growth ④ narrow

問 2

- ① author ② bother ③ clothing ④ gather

問 3

- ① balloon ② foolish ③ stood ④ toothache

**B** 次の問い（問 1～4）において、第一アクセント（第一強勢）の位置がほかの三つと異なるものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問 1

- ① native ② neighbor ③ obey ④ sacred

問 2

- ① appearance ② document ③ genetic ④ impressive

問 3

- ① indicate ② industry ③ interfere ④ Internet

問 4

- ① ceremony ② certificate ③ humanity ④ necessity

第2問 次の問い（A～C）に答えよ。（配点 44）

A 次の問い（問1～10）の  ～  に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。ただし、 ～  については、（ A ）と（ B ）に入れるのに最も適当な組合せを選べ。

問1 I could  believe my eyes. I never expected to see him there.

- ① certainly                      ② extremely                      ③ hardly                      ④ rarely

問2 To recover his strength, the patient was made  his arms above his head many times every day.

- ① raise                      ② rise                      ③ to raise                      ④ to rise

問3 My daughter always does well in school. That's why I'm not in the  anxious about her future.

- ① least                      ② less                      ③ more                      ④ most

問4 You shouldn't leave your house with  even if the weather is nice.

- ① open the windows                      ② opening the windows  
③ the windows open                      ④ the windows opening

問5 We were  our energy by the thin air and the steep paths in the high mountains.

- ① robbed from                      ② robbed of                      ③ stolen from                      ④ stolen of

問6 He was a member of the committee  duty was to choose the winner of the competition.

- ① that                      ② what                      ③ which                      ④ whose

問7 Hiro broke his lunch box again, so I have to go shopping to get .

- ① any                      ② it                      ③ one                      ④ the other

問8 （ A ） I discovered today during craft class was （ B ） I really enjoy making jewelry.

- 
- ① A : That    B : that                      ② A : That    B : what  
③ A : What    B : that                      ④ A : What    B : what

問 9 ( A ) of the castles in Japan are crowded with ( B ) young people because of the recent history boom. 16

- |            |                 |            |              |
|------------|-----------------|------------|--------------|
| ① A : Many | B : quite a few | ② A : Many | B : very few |
| ③ A : Much | B : quite a few | ④ A : Much | B : very few |

問 10 I would ( A ) the movie last night much more if I ( B ) the novel before I saw it. 17

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| ① A : enjoy        | B : had read |
| ② A : enjoy        | B : read     |
| ③ A : have enjoyed | B : had read |
| ④ A : have enjoyed | B : read     |

**B** 次の問い（問 1～3）において、それぞれ下の①～⑥の語句を並べかえて空所を補い、最も適当な文を完成させよ。解答は18～23に入れるものの番号のみを答えよ。

問 1 Daisy: Where's your portable game player?

Atsuko: My mom 18 19 night because I was playing with it too much.

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| ① away | ② from | ③ it   |
| ④ last | ⑤ me   | ⑥ took |

問 2 Son: I'm worried that I'm going to get a bad grade in history.

Father: Well, be sure to hand in all of your assignments. Other than that, 20  
21 .

- |           |           |        |
|-----------|-----------|--------|
| ① can     | ② do      | ③ else |
| ④ nothing | ⑤ there's | ⑥ you  |

問 3 Student: Ms. Hammond, what's the main cause of global warming?

Ms. Hammond: We don't know exactly, but the greenhouse effect 22  
23 it.

- |              |      |        |
|--------------|------|--------|
| ① associated | ② be | ③ is   |
| ④ thought    | ⑤ to | ⑥ with |

**C** 次の問い（問 1～3）の会話 24 ～ 26 において，二人目の発言が最も適当な応答となるように文を作るには，それぞれ(A)と(B)をどのように選んで組み合わせればよいか，下の①～⑧のうちから一つずつ選べ。

問 1 David: I don't feel like going out today.

Yuki: Come on! 24 out side. How about taking a walk along the river?

(A) It's such	➤	(A) a nice day	➤	(A) as we should go
(B) It's too		(B) nice a day		(B) for us to go

- ① (A)→(A)→(A)      ② (A)→(A)→(B)      ③ (A)→(B)→(A)  
 ④ (A)→(B)→(B)      ⑤ (B)→(A)→(A)      ⑥ (B)→(A)→(B)  
 ⑦ (B)→(B)→(A)      ⑧ (B)→(B)→(B)

問 2 Travel agent: OK, so you've decided to tour Europe rather than the US?

Customer: Yes, but 25 in Europe. Do you have any recommendations?

(A) I'm not	➤	(A) certain how	➤	(A) should I visit
(B) it's not		(B) sure which places		(B) to visit

- ① (A)→(A)→(A)      ② (A)→(A)→(B)      ③ (A)→(B)→(A)  
 ④ (A)→(B)→(B)      ⑤ (B)→(A)→(A)      ⑥ (B)→(A)→(B)  
 ⑦ (B)→(B)→(A)      ⑧ (B)→(B)→(B)

問 3 Marco: I have an appointment with my lawyer tomorrow to discuss the contract. Could you give me some advice?

Colleague: First of all, you 26 to do for you.

(A) have to make	➤	(A) it clear to him	➤	(A) what you let him
(B) should get		(B) that clear to him		(B) what you want him

- ① (A)→(A)→(A)      ② (A)→(A)→(B)      ③ (A)→(B)→(A)  
 ④ (A)→(B)→(B)      ⑤ (B)→(A)→(A)      ⑥ (B)→(A)→(B)  
 ⑦ (B)→(B)→(A)      ⑧ (B)→(B)→(B)

第3問 次の問い（A～C）に答えよ。（配点 41）

A 次の問い（問1・問2）の会話の  ・  に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 Mike: The mall is really crowded, but I always like shopping here. And the T-shirt I bought was a really good deal.

Cathy: Yeah. It looked great on you. Well, I guess it's time to go home. I wonder if it is still raining.

Mike: Oh, look! It's pouring. We'll get all wet, even with an umbrella. I don't want to catch a cold.

Cathy: OK.

- |                                   |                                   |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| ① Hopefully, you'll recover soon. | ② Let's wait here until it stops. |
| ③ We'll buy an umbrella later.    | ④ You don't like shopping anyway. |

問2 Jo: Did you go grocery shopping yesterday?

Terry: No, I didn't. You forgot to leave me a shopping list when you left for work.

Jo: Really? I thought I put it on the table.

Terry:  We should clean up the table sometime. Otherwise, we'll never be able to find what we need.

- ① How could I find it among all these papers?
- ② What time did you leave for work yesterday?
- ③ Which grocery store did we stop by?
- ④ Why did you go shopping without it?

B 次の問い（問 1～3）のパラグラフ（段落）には、まとまりをよくするために取り除いた方がよい文が一つある。取り除く文として最も適当なものを、それぞれ下線部①～④のうちから一つずつ選べ。

問 1 29

There has been a lot of research on the effects of caffeine on your body and health. Caffeine is contained in many drinks and sweets such as coffee, tea, and chocolate. ①One of the well-known effects of coffeine is keeping you awake. Some people drink a lot of coffee before exams and try to study until late at night. ②There are some other effects on you that caffeine might cause. It can, for example, sometimes increase your heart rate or blood pressure. ③It is used to add a bitter taste to some drinks, as well. ④Some countries warn that too much caffeine may cause health troubles. So, you may want to consider the amount of caffeine you take in each day.

問 2 30

A major change in French cuisine, one of the most famous styles of cooking, began in the 16th century. ①When Catherine de Médicis of Italy moved to France in the middle of the 16th century, she brought her professional cooks with her. ②Everywhere in France, there were many varieties of delicious cheeses and wines prepared for local people. ③They changed French cuisine in many ways, yet this new French cuisine was still limited to the noble class. ④As a result of the French Revolution in the late 1700s, the cooks employed by the noble class lost their jobs and therefore opened restaurants for ordinary citizens. This is one of the theories about the birth of today's French cuisine.

問 3 31

Some people do not like to throw things away and may feel a sense of comfort by keeping them well ordered and ready for use. When Kenta's grandmother asked him to help clean her house before New Year's Day, he found a lot of old stuff of no value to anyone else. ①She had kept all of the wrapping paper she had received, which was neatly folded, along with various nice ribbons. ②There were pill containers stuffed with spare buttons as well as small pieces of thread and string wrapped around strips of paper. ③There were some rare collector's items that she was going to sell to make money for charity. ④All these things were well organized and made ready for use whenever she might need them. However, she realized no one would use them, not even herself. So, Kenta and his grandmother decided to throw them all away.

C 次の会話は、「農場での体験実習」をテーマとして、あるアメリカの大学で行われた授業でのやりとりの一部である。32 ～ 34 に入れるのに最も適切なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

Prof. Becker: This is our first class since you all finished your eight-week-long farm work experiences throughout Washington State. I'd like you to share some stories of your experiences. Who'd like to go first? Go ahead, Melanie.

Melanie: I was interested in traditional farming, and I thought many of the methods might be very useful in modern commercial farming, too. So I chose a farm that adopted ways of farming once used in the region. The workers there don't use any artificial chemicals. They plant various crops together in a field, rather than planting only one. I didn't really know planting multiple crops would help prevent plant diseases, decrease the number of harmful insects, and maintain the quality of the soil. At the same time, I was surprised that workers on this small farm were using very modern technology. For example, they used computers to decide when to supply water to their fields. In short, these farmers were 32 .

- ① integrating older and newer farming techniques
- ② spraying artificial chemicals according to the schedule
- ③ updating and developing advanced computer software
- ④ using insects to protect crops from harmful diseases

Prof. Becker: Thank you, Melanie. That's interesting. Who'd like to speak next? Eric?

Eric: Yes. I was working on a small farm, too. I spent most of my time keeping the plants healthy by monitoring the soil. This farm used the latest methods for analyzing it. Using the data obtained, the workers maintained the quality of the soil and planned for the next crops. They were making use of new developments in biology and chemistry in their farming. I was very impressed. I hadn't thought I could apply my knowledge of chemistry to farming. I'll definitely consider farming as a future job.

Ann: I was also a small farm. I come from a big city, and I hadn't even planted flowers in a garden before. So I'd never thought about becoming a farmer. But I'm interested in food safety and wanted to try working in agriculture. I learned that modern techniques maintained the condition of the plants very effectively without affecting the safety of vegetables. Through this experience, I realized that working on a farm is a very attractive option for me in the future.



Prof. Becker: It seems that you both 33 . So, is there anyone who went to a large farm?  
Yes, David?

- ① are worried about the safety of the products
- ② made a lot of money working on small farms
- ③ see farming as a potential career choice now
- ④ used your knowledge of chemistry for farming

David: The farm I went to was a huge commercial wheat farm. Because it covered a large area, it wasn't easy for the workers to remember the places where they had supplied water and sprayed chemicals. They said they would often mistakenly work in the same place twice. Now, navigation systems enable them to avoid excessive application of chemicals and water. This makes their farming much more efficient. Otherwise, they would waste too much time.

Ann: Wow! That's very different from what I experienced.

Prof. Becker: Thank you, David. You all have learned some different things. However, from your experiences, it seems that regardless of the size of their farms, farmers 34 on their farms. Does anyone have any further comments?

- ① adopt navigation systems
- ② maintain traditional methods
- ③ rent watering devices
- ④ use modern techniques

第4問 次の問い (A・B) に答えよ。(配点 35)

A 次の文章はある説明文の一部である。この文章と表を読み、下の問い (問1～4) の 35 ～ 38 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

Much research has shown that lack of sleep causes problems for young people's health and behavior, including poor concentration and academic performance. Researchers have been interested in what young people do before bedtime, known as pre-sleep activities, and the different effects they have on the times at which young people go to sleep.

Through a survey conducted in New Zealand with more than 2,000 participants aged 5 to 18, researchers examined the effects various pre-sleep activities have on sleeping habits. The activities of participants before going to sleep were grouped into three categories: *Screen time*, such as using computers and watching television; *Non-screen time*, for instance, doing homework and reading; and *Self-care time*, for example, brushing teeth and changing clothes. Some activities did not belong to any category.

Table 1 shows 10 common activities in the 90 minutes before going to sleep and the percentages of the participants who engaged in each activity. The most frequently reported activity was *watching television*, which was followed by two activities belonging to Self-care time. Although the percentages of these two activities were rather close to that of watching television, there was a considerable drop in the next activity, *eating*. The activity *reading* appeared lower than the activity *showering*. Moreover, the number of the participants who chose reading was less than half of the number of those watching TV.

Table 1

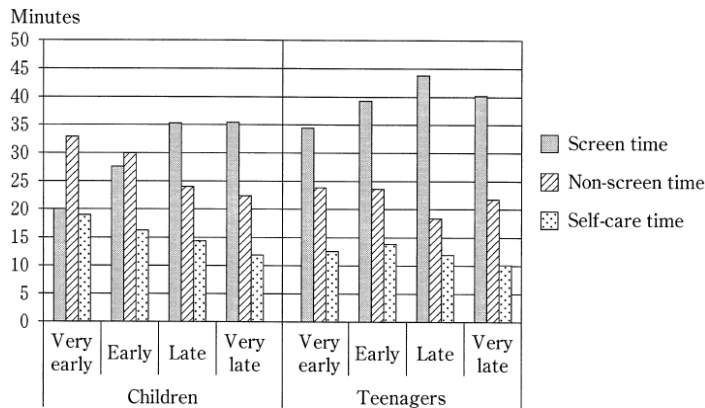
*The Common Pre-sleep Activities*

Watching Television	47.8%
Changing clothes	41.8%
(A)	41.5%
(B)	29.8%
Going to the toilet	26.0%
Washing hands or face	20.9%
(C)	19.3%
(D)	18.9%
Lying awake	18.2%
Drinking (water, milk, etc.)	14.1%

In order to investigate the different effects pre-sleep activities had on the times the participants went to sleep, the researchers divided the participants into two age groups: Children (5-12 years) and Teenagers (13-18 years). Within each group, the data were further divided and analyzed. First, they were divided according to the times at which participants went to sleep (*Very early*, *Early*, *Late*, or *Very late*). Then, the relationship between the times of going to sleep and the amount of time spent on different activities in each category was examined.

Figure 1 shows that Teenagers tended to spend more time on screen-based activities than did

Children, whereas Children spent more time on self-care activities than did Teenagers. Both groups had a similar tendency in the relationship between Screen time and the lateness of going to sleep in that young people with longer Screen time were likely to go to bed later. Thus, it may be appropriate to aim at cutting the length of time spent doing screen based activities. This would help encourage those aged 18 and under to go to bed earlier and sleep longer.



**Figure 1.** Comparison of the average times according to behavioral sets and lateness of going to sleep for Children and Teenagers.

Through this study, the researchers explored the specific times at which participants went to sleep. In order to see their sleeping habits more clearly, though, how long they actually spent sleeping must also be considered. There is a need, therefore, to look into this in relation to the activities discussed so far in the present study. We will focus on this in the following section.

(Louise S. Foley 他 (2013) *Presleep Activities and Time of Sleep Onset in Children* の本文およびデータの一部を利用し作成)

問 1 In Table 1, which of the following do (A), (B), (C), and (D) refer to? 35

- |                      |                    |               |               |
|----------------------|--------------------|---------------|---------------|
| ① (A) Brushing teeth | (B) Eating         | (C) Reading   | (D) Showering |
| ② (A) Brushing teeth | (B) Eating         | (C) Showering | (D) Reading   |
| ③ (A) Eating         | (B) Brushing teeth | (C) Reading   | (D) Showering |
| ④ (A) Eating         | (B) Brushing teeth | (C) Showering | (D) Reading   |

問 2 According to the passage and Figure 1, which of the following statements is correct? 36

- ① Children are likely to spend less time doing screen-based activities than Teenagers.
- ② Children in the category Early tend to have longer Screen time than Teenagers.
- ③ Teenagers are likely to spend more time taking care of themselves than Children.
- ④ The more Non-screen time participants of both age groups have, the later they go to sleep.

問 3 The main purpose of the passage is to 37 .

- ① describe links between activities before going to sleep and times of going to sleep
- ② explain why people's sleeping habits are disturbed by non-screen activities
- ③ prove that doing screen-based activities at night does harm to one's health
- ④ suggest that the increased number of self-care activities leads to sleeping later

問 4 What of the following topics will the authors most likely focus on next? 38 .

- ① A response to critical views on the Screen time use among the younger participants
- ② Advice related to ways to encourage children and teenagers to go to bed earlier
- ③ An account of how pre-sleep activities relate to how many hours young people sleep
- ④ Discussions of a study that compared the screen time use of early and late sleepers

**B** 次のページのマカダミアナッツのオンラインショップに関するウェブサイトを読み、次の問い（問1～3）の  ～  に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 Which of the following is true about Tarrigun Macadamia Farmland?

- ① Many different types of nuts and vegetables are grown at the farmland.
- ② Natural Raw Nuts are flavored with salt and pepper at the farmland.
- ③ Online sales of macadamia nuts started at the farmland 15 years ago.
- ④ Visitors have opportunities to take nuts directly off the trees if they wish.

問2 A customer living in Australia wants to have some macadamia nuts delivered to her house. She cannot eat spicy food at all. Her total budget is 20 dollars. Which would she most likely order?

- ① Two bags of Honey Roasted Nuts
- ② Two packs of Curry Salted Nuts
- ③ Two packs of Natural Raw Nuts
- ④ Two tins of Natural Raw Nuts

問3 Which of the following is true about online deliveries?

- ① Natural Raw Nuts are delivered one day after online orders.
- ② Orders of large amounts of nuts receive a small discount.
- ③ Questions by email about international deliveries are accepted.
- ④ Telephone service about deliveries is available 24 hours a day.



## Tarrigun Macadamia Farmland



**Fresh, healthy, and delicious Australian macadamia nuts**

---

Our macadamia nuts are organically grown on our family farm in the Tarrigun Hills. Packed with fiber, vitamins, minerals, and healthy oils, our macadamia nuts make the perfect healthy snack. At our farm we bring you delicious macadamia nuts in different flavors. You can also visit our farmland and pick macadamia nuts yourself.

To celebrate the 15th anniversary of our opening, we are pleased to announce we are now taking orders online. You can order the following varieties:

Natural Raw — Macadamia nuts straight off the tree, neither roasted nor seasoned

Curry Salted — Macadamia nuts lightly seasoned with hot curry powder and sea salt

Honey Roasted — Macadamia nuts roasted in locally farmed honey

### Online Delivery Order Form:

Prices current from January 1, 2017 (Tax included)

	Weight	Natural Raw Nuts		Curry Salted Nuts		Honey Roasted Nuts	
Pack	100 g	\$4.00	<input type="text" value="0"/>	\$5.00	<input type="text" value="0"/>	\$6.00	<input type="text" value="0"/>
Bag	150 g	\$6.00	<input type="text" value="0"/>	\$7.50	<input type="text" value="0"/>	\$9.00	<input type="text" value="0"/>
Tin	200 g	\$8.00	<input type="text" value="0"/>	\$10.00	<input type="text" value="0"/>	\$12.00	<input type="text" value="0"/>

Click  to enter your details.

Delivery takes 2-5 working days with a shipping/handling charge of \$ 10.00.

International shipping: For specific shipping charges and expected shipping times,

email us or phone during business hours (9:00—17:00 Australian Eastern Standard Time).

Email: [tarrigunfarmland@tarrigun.com.au](mailto:tarrigunfarmland@tarrigun.com.au) Tel: 212—555—0121

第5問 次の物語を読み、下の問い（問1～5）の 42 ～ 46 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。（配点 30）

“You can take only ONE toy and ONE book in the car with you!” My orders were not met with tears and protests from my children. As it was five in the morning, they were still sleepy. But there was no choice; tears or no tears, we had to get the car loaded and start our trip before the morning traffic got too bad.

I thought back to my childhood and remembered family trips: the long car rides and the endless fights with my brother over anything and everything. It felt like we were trapped forever. We quickly claimed personal space in the back seat of the car and defended it with a border of bags and cushions from that minute on. At first, we tried to read, but the motion of the car made us feel sick. Then we tried to sleep but could not find a comfortable position. We would finally agree to play games in the car like “I Spy With My Little Eye.” That made us look at the wonderful world speeding past us. Sometimes we would read the license plates on other cars to see who could spot the one which had come from the farthest away. I remember even seeing one from as far away as Alaska. Although we would never admit it, in those moments we actually enjoyed each other’s company.

Dad would try to join in our conversations by telling the kind of bad jokes that are almost too awful to repeat. “Why did the little boy throw the clock out the window? He wanted to see time fly.” “What letter in the alphabet can you drink? T.” “Why is number six afraid of number seven? Because seven ate nine! Do you get it? Ate — eight. Ha ha ha!” He would laugh, thinking he was the word’s greatest comedian. “Ewwww, sick!” “Mom! Make him stop,” we complained together. But he wouldn’t quit until he was able to make us all burst out laughing. Sometimes I laughed so hard that tears streamed down my face.

Once in a while, we would leave the highway to visit tourist spots like “The Magical Forest,” a park filled with statues of spirits and fairies that would fill our imaginations with fantasy stories. There were other rest stops, too, near towns with names we could not pronounce. In those places, Mom would set out delicious picnic for us while we ran around and played. But our favorite rest stops were places where we could see natural wonders, like waterfalls, mountains, and canyons. We would take some time to hike around those areas, take photos, or just enjoy the sweet country air.

Later in the afternoon, when we arrived at our camping site, the tent would have to go up. That was Dad’s job. There always seemed to be a pole or something missing, but he would patiently find a good solution. The prospect of sleeping in a tent under the stars made my brother and me so excited that we could barely stand still. Dad took advantage of our energy by sending us out to collect sticks to start a fire for the barbecue and to get water for washing. Sometimes we met children from other families in the camping area. Together, we would pretend that we were explorers of a strange new world while we gathered our firewood and carried the water. During

these first explorations of the camping area, we felt so brave and important.

Years later, it is the stories created from the memories of these trips that we all share and laugh about. Somehow, my brother and I feel closer when we remember how much we fought but loved each other during these trips. And I have a deeper sense of admiration for my parents, who chose to spend their very limited vacation time giving us happy experiences in new places. Although our family never had much money, our car trips had a value I only now understand. In a few years, I hope that my kids will understand, too.

“OK, everyone — get into the car!”

問 1 By playing games in the car, the author 

42
----

 .

- ① missed the beautiful scenery
- ② passed some time happily
- ③ saw license plates in Alaska
- ④ suffered motion sickness

問 2 What did the author’s father do while driving? 

43
----

 .

- ① He drove very fast to enjoy himself.
- ② He made his children tell silly jokes.
- ③ He talked about having a picnic.
- ④ He tries hard to entertain his family.

問 3 The family especially loved rest stops where they 

44
----

 .

- ① ate lunch in the car
- ② enjoyed the beauty of nature
- ③ pronounced town names
- ④ told funny stories

問 4 The children felt brave and important in the camping area when they 

45
----

 .

- ① found the missing tent parts
- ② had a chance to see the night sky
- ③ were taken care of by their parents
- ④ were trusted to do tasks on their own

問 5 What was the result of the family trips? 

46
----

- ① The author became reluctant to go on family expeditions.
- ② The author’s children understood the meaning of family trips.
- ③ The children could no longer respect their parents.
- ④ The family members were able to strengthen their bonds.

**第6問** 次の文章を読み、下の問い（A・B）に答えよ。なお、文章の左にある(1)～(6)はパラグラフ（段落）の番号を表している。（配点 36）

- (1) Many business make regular contributions to charity. Recently, though, some large companies have started what are called “social businesses.” They engage in activities such as providing clean water or reusable energy facilities for the community, or providing food and housing for the poor, without expecting to earn a lot of money. In some ways, the actions of social businesses are similar to, but not exactly the same as, what charities have been doing. In order to understand social businesses more deeply, it is useful to take a look at the history of charity.
- (2) Helping the poor has long been considered an obligation by major religions. They teach that helping less fortunate people is important. For example, in Europe during the Middle Ages, it was the Church that helped the poor by providing food and money for those in need. To care for the sick, old, or weak, the Church also established and operated hospitals. These ways of helping people were considered important charitable activities of the Church.
- (3) In the 16th century, local governments also started providing different forms of charity, using taxes collected from the local people. It was at this time that places began to be built to provide poor people with housing and food. These were called poorhouses. Soup kitchens — places where food was offered to the hungry free of charge or at a very low price — also began to appear at this time.
- (4) By the 18th century, it had become common to do charitable work, and many charitable institutions had been set up. Yet, one criticism had become widespread. It was the idea that charity prevented people from supporting themselves and encouraged dependency. This criticism led to a change in the way assistance was provided. Poorhouses gave way to workhouses, where the residents could still receive food and housing but were required to do long hours of hard work. These places were designed to be very unpleasant to live in. This was done to discourage people from asking for help. They thus became places that were feared and hated by the poor. In the 19th century, the conditions in these charities became so bad that some novelists began describing the harsh realities of workhouses in popular novels, which raised public awareness.
- (5) This brings us to modern ideas about helping people. Many types of assistance for the poor are now provided by the central government under the name of social welfare, including systems such as unemployment insurance or social security. Social security provides funds to the poor, to the disadvantaged, and to old people who have retired.
- (6) This historical overview shows us how charitable activities have evolved along with society. These changes have included changes in who provides the assistance and what types of assistance are given. Business has also evolved and changed over time. Now, social businesses, with their heightened sense of social responsibility, are performing charitable



activities such as providing poor people in local communities with food, housing, and services. They even employ people living in those areas and pay them decent wages. It goes without saying that, as a business, they must make some profit. However, that is not their sole purpose. They must also meet their social responsibilities.

A 次の問い（問 1～5）の  ～  に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問 1 In paragraph (2), what is mentioned as something the Church did?

- ① Creating universities to train workers
- ② Getting businesses to help the poor
- ③ Holding religious services for the unfortunate
- ④ Offering medical treatment for the ill

問 2 According to paragraph (3), what did poorhouses do?

- ① They collected taxes from people to help develop towns.
- ② They fed people in need and gave them a place to live.
- ③ They helped train people in occupations and find them jobs.
- ④ They provided an alternative to the Church and its beliefs.

問 3 According to paragraph (4), which opinion became common during the 18th century?

- ① Books hid the reality of society's attitudes towards the poor.
- ② Giving help to the poor would cause them not to work.
- ③ There would be fewer poor people due to new social programs.
- ④ Workhouses should urge poor people to seek assistance.

問 4 According to paragraph (6), what is one characteristic of social businesses?

- ① They are causes of economic inequality.
- ② They get financing from central governments.
- ③ They hire local people in their companies.
- ④ They mainly deal with big businesses.

問 5 What would be the best title for this passage?

- ① Challenges for Churches
- ② Helping People Through the Ages
- ③ Personal Approaches to Charity
- ④ Religious Beliefs and Helping People

**B** 次の表は、本文のパラグラフ（段落）ごとの内容をまとめたものである。 52 ～ 55 に入れるのに最も適当なものを、下の①～④のうちから一つずつ選び、表を完成させよ。ただし、同じものを繰り返し選んではいけない。

Paragraph	Content
(1)	Social businesses as a new way of helping people
(2)	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 10px;">52</span>
(3)	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 10px;">53</span>
(4)	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 10px;">54</span>
(5)	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 10px;">55</span>
(6)	Social businesses helping communities

- ① Current systems to provide public assistance
- ② Faith-based help for the poor
- ③ Negative feelings towards charity
- ④ Public institutions' moves to aid the poor

# 2017 年度（追試）の正解

## 英 語 （ 筆 記 ） （200 点満点）

問題 番号 (配点)	設 問		解答番号	正 解	配 点	問題 番号 (配点)	設 問		解答番号	正 解	配 点
第1問 (14)	A	1	1	2	2	第3問 (41)	A	1	27	2	4
		2	2	1	2			2	28	1	4
		3	3	3	2						
	B	1	4	3	2		B	1	29	3	5
		2	5	2	2			2	30	2	5
		3	6	3	2			3	31	3	5
		4	7	1	2		C			32	1
						33		3	6		
						34		4	6		
第2問 (44)	A	1	8	3	2	第4問 (35)	A	1	35	2	5
		2	9	3	2			2	36	1	5
		3	10	1	2			3	37	1	5
		4	11	3	2			4	38	3	5
		5	12	2	2		B	1	39	4	5
		6	13	4	2			2	40	3	5
		7	14	3	2			3	41	3	5
		8	15	3	2						
		9	16	1	2	第5問 (30)	1		42	2	6
		10	17	3	2		2		43	4	6
	B	1	18	3	4*		3		44	2	6
			19	5			4		45	4	6
		2	20	4	4*		5		46	4	6
			21	1							
		3	22	4	4*	A	1	47	4	6	
			23	1			2	48	2	6	
	C	1	24	2	4		3	49	2	6	
		2	25	4	4		4	50	3	6	
		3	26	2	4		5	51	2	6	
						B		52	2	6*	
							53	4			
							54	3			
					55		1				
						(注) * は, 全部正解の場合のみ点を与える。					



**mem**